



神奈川県
神奈川県立青少年センター



体験を通じて 育ちと学びを

令和7年度
神奈川県立青少年センター 指導者育成課

事業実施 報告書

次の百年も

古き良き伝統を

受け継いで…



4月

支援・指導者育成事業 担当者会議☆

(全2回) 11月にも開催

常任委員会☆

(全3回) 10月・2月にも開催

5月

リードアップセミナー (全3回)

青少年指導員セミナー (全3地域) ~6月

総会☆

6月

中学生の主張 in かながわ 作文コンクール (作文募集) ~9月

ユースボランティアセミナー (全2回)

子ども施設指導員セミナー

(全6回) 7・9・10・11・12月にも開催

7月

専門部会☆ (全4回) 10・12・1月にも開催

体験学習プログラムセミナー〈子どもの心を動かすアイスブレイキング〉(全3回) ~8月

〈対話で変わるチームビルディング〉(全2回)

8月

子どもの体験活動をすすめる指導者セミナー〈子どもの安心感を高めるコミュニケーション編〉

コミュニケーションスキルアップセミナー〈インプロ・ゲームワークショップ〉

キャンプ活動セミナー (Next Leder's Camp 全2回)

9月

中学生の主張 in かながわ 発表大会

10月

イベントボランティアセミナー

(全6回) ~2月

11月

NEALリーダー養成セミナー

(全2回) ~12月

子どもキャンププロジェクト

(全6回) ~3月

12月

継続事業

・イベントボランティアセミナー

・NEALリーダー養成セミナー

・子どもキャンププロジェクト

1月

継続事業

・イベントボランティアセミナー

・子どもキャンププロジェクト

2月

子どもフェスティバル (子ども会大会)

アップスキリングプロジェクト

継続事業

・イベントボランティアセミナー

・子どもキャンププロジェクト

3月

継続事業

・子どもキャンププロジェクト

おめん

※通年で開催

【地域応援事業】

全10回実施

【ステップアップキャラバン】

全7回実施

CONTENTS

令和7年度 事業報告

(1)地域や組織で活躍する「支援・指導者」の研修等 1

- ①地域応援事業
- ②青少年指導員セミナー
- ③NEALリーダー養成セミナー
- ④子どもの体験活動をすすめる指導者セミナー（子どもの安心感を高めるコミュニケーション編）
- ⑤体験学習プログラムセミナー・子どもの心を動かすアイスブレイキング
・対話で変わるチームビルディング
- ⑥子ども施設指導員セミナー
- ⑦リードアップセミナー
- ⑧アップスキリングプロジェクト

(2)若者・リーダー育成の研修等 29

- ①ユースボランティアセミナー
- ②イベントボランティアセミナー
- ③キャンプ活動セミナー（Next Leader's Camp）
- ④子どもキャンププロジェクト
- ⑤コミュニケーションスキルアップセミナー
- ⑥ステップアップキャラバン

(3)その他の事業（連携・活動支援・受託事業） 41

- ①子どもフェスティバル（子ども会大会）
- ②中学生の主張 in かながわ 作文コンクール
- ③支援・指導の現場で活かせるレシピの作成
- ④元気な子ども・若者の地域活動調査事業
- ⑤神奈川県青少年指導者養成協議会
- ⑥青少年資料室の運営
- ⑦団体への支援・協力
- ⑧講師派遣

研修の事後調査の結果

研修事業の事後調査結果 43

研修の活用事例の紹介

- (1)小田原市子ども若者部青少年課育成係 樽木 将吾さん 45
- (2)公益財団法人よこはまユース野島青少年研修センター 石村 裕子さん 46
- (3)SAMPO株式会社グッデイ/NPO団体モーネ 有吉 真さん 47
- (4)藤沢市みらい創造財団 少年の森 黒澤 彩夏さん 48
- (5)神奈川県立湘南高等学校 中島 裕さん 49

令和7年度 専門部会 広報（神奈川県青少年指導者養成協議会）

- すぐ使える！アイスブレイキング動画集
～みんなが笑顔になれる実践ガイド～ 51

令和8年度 研修事業計画 53

研修事業チラシ集

平塚市ジュニア・リーダーズクラブ研修会

講師 青少年センター職員

目的 市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年教育活動を積極的に推進するため。

企画の経緯 平塚市ジュニア・リーダーズクラブ（以下JLC）が主催する夏のキャンプに向けた準備として、平塚市青少年課の要望により研修を企画した。アイスブレイキング、野外炊事のアクティビティの基本的な知識と技術の習得を図ることを目的とした。

日時 6/15(日)8:30～17:00

会場 平塚市青少年会館
平塚市びわ青少年の家

参加対象 平塚市ジュニア・リーダーズクラブ

参加人数 20人

広報手段 主催団体の募集による

共催等 【主催】平塚市
【共催】県立青少年センター

活動の様子



円筒型の窯に薪をくべて



先輩に切り方を教わります



火加減にこだわる職人の眼差し



羽釜で炊飯は難しい～！



美味しく盛り付けできました！



職員の「いたごち」で大盛り上がり

参加者の声
(抜粋)

他地域の運営の方法や取組みについて知る機会になり学びになった。地域に密着したJLCの活動を、より充実させていきたい。(職員)

野外炊事のメニューなど、毎年こうだから…となっていることを考え直すのも大切だと感じた。次年度に繋げていく。(職員)

共催という形にし、事業の組立てなど長期的に相談ができたことがよかった。引き続き協力し合いたい。(職員)

評価 野外炊事、アイスブレイキングを目的としたレクリエーションゲームともに充実した体験となった。今後もメンバーが相互に安心感を持ち、この場を第3の居場所として感じられるよう、さらに仲を深めていくことを期待したい。

課題 平塚市のように行政がJLやYLを直接所管し、同席して活動を見守る形態は、将来的に他の市町村にとってひとつのモデルになり得るのではないか。教員としての目も持つ当課の職員が、市町村職員の相談に乗りながら、伴走支援をしていく取組みを今後も継続したい。

プログラム

- ・野外炊事体験
- ・レクリエーションゲーム体験

神奈川社会教育士会総会

講師 青少年センター職員

目的 市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年教育活動を積極的に推進するため。

企画の経緯 神奈川社会教育士会の依頼により総会の議事進行終了後の研修を企画した。青少年をめぐる現代的な課題、かながわ青少年支援・指導者育成指針についての情報提供を通じ、地域活動の質的な向上及び拡大を図ることを目的とした。

日時 6/29(日)14:00～17:00

会場 かながわ県民活動サポートセンター

参加対象 神奈川社会教育士会

参加人数 7人

広報手段 主催団体の募集による

共催等 【主催】神奈川社会教育士会
【共催】県立青少年センター

プログラム

・講演及びワークショップ
「かながわ青少年支援・指導者育成指針をめぐる概況」

参加者の声 (抜粋) 青少年に関わる現代的な課題について、理解が深まった。業務で部活動の地域移行を担当しているが、第3の居場所としての機能を意識しながら、施策を考えていきたい。

地域の力が弱まっていることに課題意識を持っている。行政として今後どのように地域に働きかけていくべきか、ヒントが得られた。青少年指導員等の研修にも生かしていく。

少年時代を思い出し懐かしさを覚えた。参加者の少年時代の話が伺えたことも楽しかった。現在の青少年についても想像力を持って関わっていきたい。

評価 リードアップセミナー第3回の講演、ワークショップを活用して実施した。子ども会や青少年指導員に関わる業務をされている方もおり、質疑応答も活発に行われ、進行側としても有意義な学びとなった。

課題 会議、研修等の際、青少年センターを会場として提供することなどもできれば、互いの持つネットワークの交流や、拡大する効果も見込めるのではないか。今後も青少年教育の裾野の拡大に向け、連携を深めたい。

かながわユースフォーラム2025

講師 青少年センター職員

目的 市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年教育活動を積極的に推進するため。

企画の経緯 神奈川大学社会教育課程かながわユースフォーラム実行委員会の依頼により、社会教育に係る大学生向けイベントにおいてパネル出展を企画した。当日は事業広報、他企画の視察、参加者との情報交換を図ることも目的とした。

日時 7/5(土)13:00~16:00

会場 神奈川大学横浜キャンパス3号館3階、4階

参加対象 大学生及び高校生

参加人数 409人

広報手段 主催団体の募集による

共催等 【主催】かながわユースフォーラム実行委員会
(神奈川大学 社会教育課程 学生有志)
【協力】県立青少年センター他

プログラム

- ・パネル出展
「チームをはぐくむ 華麗なる野外炊事」

活動の様子



多くの学生が足を止めたパネル出展



学生からのフィードバックが鈴なり



参加者としても多くの学びがあります



分科会にも参加。GWも充実!



楽しませる工夫があちこちに☆



育成課で学んだ学生も大車輪の活躍

参加者の声 (抜粋)

野外炊事は小学生のころからなじみがあったけど、カレーがこんなに奥深かったなんて初めて知った! おもしろかった!

野外炊事におけるカレーの、その優れた料理としての特性、環境教育などへの応用など、カレーを選ぶ意味がわかりやすくまとめられていた。

キャンプはカレー♪のイメージがあったので、その理由を知ることができて、おもしろかったです。友達とお好み焼きを焼くのが盛り上がるのも、役割があって会話が広がるからかなと思いました。

評価 カレーを切り口に社会教育を考える内容とし、カジュアルで読みやすい雰囲気になるように努めた。結果として、社会教育を従来とは違った観点から捉え直すこととなり、幅広い関心を惹きつけることができた。常に新しい気づきを提供できるように課として引き続き協力していきたい。

課題 学生との会話は弾んだものの、最終的に夏季の事業の参加者獲得にまでは至らなかった点は惜しまれる。いただける機会を大切にしながら、今後も地道に声掛けを続け、それを継続することで学生の信頼を勝ち取っていきたい。

有馬コミュニケーションDAY

講師 青少年センター職員

目的 市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年教育活動を積極的に推進するため。

企画の経緯 夏休み後の8月25日(月)に、生徒へ向けたチームビルディングイベント「有馬コミュニケーションDAY」を行うことになっており、その実施の際に必要なスキルの習得のため、当課が出張研修を行う運びとなった。

日時 7/24(木)13:30～16:00

会場 神奈川県立有馬高等学校

参加対象 神奈川県立有馬高等学校 教職員

参加人数 33人

広報手段 主催団体の募集による

共催等 【主催】神奈川県立有馬高等学校
【共催】県立青少年センター

活動の様子



オリエンテーション



アイスブレイキング



コミュニケーションゲーム



イニシアティブゲーム



コンセンサスゲーム



振り返り

参加者の声
(抜粋)

アイスブレイクを、まずはファシリテーター対全員(それぞれ)で行い、少しずつ人数を増やしていくという過程が印象に残りました。(中略)強制的にペアワークをさせるより自然なコミュニケーションが生まれているのを感じました。

フラフープと棒を支える話を、重心や対称性の話に絡めたら、数学や物理の学習につながると思いました。

(当日実施後)1年生は素直にいろいろと取り組んでくれて、他クラスやいつもは接しない先生方とも交流できてよかったように思います。問題は体育館の暑さでしょうか。暑い中、準備から実施まで本当にお疲れさまでした。

評価 学校の先生に向けて行う研修は、非常に有意義で前向きに研修に参加してくれる教職員の方々が多かった。生徒に還元したいという気持ちが教職員から出ていたように思う。

課題 学校の先生方は非常に忙しく、研修等を余裕をもって受ける時間がないので時期や時間を調整して行っていきたい。

プログラム

- ・コミュニケーションゲーム
- ・イニシアティブゲーム
- ・コンセンサスゲーム

令和7年度かながわ青少年みらいフォーラム

講師 青少年センター職員

目的 市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年教育活動を積極的に推進するため。

企画の経緯 神奈川県福祉子ども未来局青少年課の依頼により、青少年とともにスマホ（SNS、ゲーム、インターネット）との上手な付き合い方を考えるイベントに職員を派遣した。アイスブレイクングのアクティビティの知識を提供したほか、当日はワークショップ進行においても協力した。

日時 7/1(火)16:00～17:00
7/2(水)16:00～17:00
7/27(日)8:30～17:15

会場 (事前研修) オンライン
(事業会場) 横浜市開港記念会館

参加対象 中学生、高校生、大学生及び関心のある大人

参加人数 104人

広報手段 主催団体の募集による

共催等 【主催】神奈川県及び横浜市
【共催】かながわ青少年社会環境健全化推進会議
【協力】県立青少年センター

プログラム

【ファシリテーター事前研修】
「出会いのゲーム」

【令和7年度 かながわ青少年みらいフォーラム】
・グループワークに係るファシリテーション
・発表資料の展示（ポスターセッション）の参加

活動の様子



グループワークはお菓子とともに



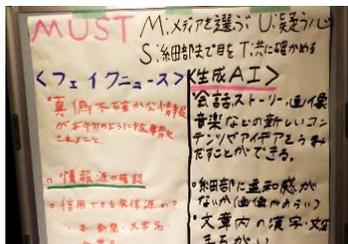
ポスター製作に力が入る



アイスブレイクングは育成課が伝授



ポスターセッションは生徒たちが運営



フェイクや生成AIなど現代的な課題も



文教大の池辺教授の基調講演と講評

参加者の声
(抜粋)

今回、初めての人たちとトラブルの話し合いをして、自分には考えもつかなかった意見ばかりで、新しい発見をしたりとか、これがきっかけで仲良くなれたりもして、とても楽しかったし、来てよかったなと思いました。

いろいろな目線で話し合うことが初めてだったので、とても興味深かった。また、それを他の人に発表するというのが楽しかった。

子どもなりにトラブルの対処法を考えていることがわかった。年齢の近い大人（大学生）の進行は、中高生が親しみやすいことを感じた。

評価 ネットトラブルは実体験する時間や意欲を奪い、青少年の非認知能力の成長を抑制することもネガティブな要因だと学んだ。体験の価値を伝えることに取り組む指導者育成課としても、今回の気づきと視点を持ちつつ、事業の充実と広がりにも努めたい。

課題 「こどもの意見聴取と政策への反映」という文脈でも有意義な事業とすることができた。若者が自分たち自身で作上げたみらいフォーラムは、神奈川県の一つのモデルとなった事業となったのではないかと。参加する大人のマインドセットも考えていきたい。

茅ヶ崎市インリーダー研修会

講師 青少年センター職員

目的 市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年教育活動を積極的に推進するため。

企画の経緯 茅ヶ崎市青少年課では、毎年2回小学校3～6年生や保護者を対象にインリーダー研修を実施している。その中で、ただ楽しい研修だけでなく学びのある研修を実践したいという協力の要請があったため、今回のような「リーダー研修」とした。

日時 8/3(日)10:00～12:00

会場 茅ヶ崎市役所本庁舎

参加対象 茅ヶ崎市の小学生3～6年生及び保護者

参加人数 18人

広報手段 主催団体の募集による

共催等 【主催】茅ヶ崎市
【共催】県立青少年センター

評価 小学生並びに保護者を交えた形での研修は初めてであり、どのようにすれば伝えたいことを伝えられるのか考えながら実践できた。体験を通してリーダーに必要な要素を感じてもらえたのではないかと。

課題 タイムマネジメントが難しかったため、時間に余裕を持った内容としていきたい。

プログラム

- ・アイスブレイキング
- ・コピーブロック

Sakae Wakamono Creation 2025 チームビルディングワークショップ

講師 青少年センター職員

目的 市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年教育活動を積極的に推進するため。

企画の経緯 ティーンズクリエイション組織委員会を構成する横浜市栄区の青少年の地域活動拠点「フレンズ☆SAKAE」の依頼により、青少年に第3の居場所を提供する文化事業「Sakae Wakamono Creation2025」の支援を企画した。

日時 8/8(金)16:30～19:30

会場 横浜市栄区青少年の地域活動拠点「フレンズ☆SAKAE」

参加対象 Sakae Wakamono Creation2025のうち、創作舞台の企画者、参加者及び支援者等

参加人数 18人

広報手段 主催団体の募集による

共催等 【主催】ティーンズクリエイション組織委員会
【共催】県立青少年センター

プログラム

・チームビルディング及びインプロビゼーション（即興劇）のアクティビティ体験

活動の様子



中高大の若者を中心に、幅広い年代で



創作や表現を楽しむ雰囲気がある会場



9月には青少年センターで公演も



光るスマホの小道具なども自作



包括的な活動支援を進めた好事例に



12月の本番、期待しています！

参加者の声 (抜粋)

仲間との絆が深まって、その人の性格や立ち回り方をよく知ることができた。自分の立ち位置も知ることができた。

今まであまり関わったことがない人ともたくさん話すことができた。最後のレゴのゲームでは苦戦しながらもそれぞれ協力しながら進めることができてとても楽しかった。

指導員さんもとてもアットホームな雰囲気、あだ名で呼び合うのはとてもいいと思いました。

評価 実施に向けて大人の支援者ではなく若者メンバーの代表とやりとりをしたことで、支援・指導者養成としての効果をより高められた。インプロアクティビティやコミュニケーションゲームが特に効果的で、グループがチームに変化していく時期に適した、きっかけを提供することができた。

課題 大人の支援者とは異なり、学校や居場所施設の若者は常に入れ替わっていく存在である。ティーンズクリエイション組織委員会でも、常に初めて体験する若者がいるということに目を向け、年度ごとに実施することの価値を引き継いでいきたい。

茅ヶ崎市小学校ふれあいプラザ研修会

講師 青少年センター職員

目的 市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年教育活動を積極的に推進するため。

企画の経緯 茅ヶ崎市教育委員会青少年課の依頼により、昨年度初めて小学校ふれあいプラザスタッフを対象とする研修を行った。その時はアイスブレイキング体験と、法律の観点から見た児童指導の注意点についての講話をさせてもらったが、より現場に適した内容を企画したいと参加者のふり返りから伝わったため、今年度は企画段階から茅ヶ崎市と打合せを行い、共催として地域応援事業で行うこととした。

日時 9/22(月)10:00～12:00

会場 茅ヶ崎市役所 4階会議室

参加対象 茅ヶ崎市小学校ふれあいプラザ運営委員・パートナー (各プラザ3名まで)

参加人数 19人

広報手段 主催団体の募集による

共催等 【主催】茅ヶ崎市教育委員会教育推進部青少年課
【共催】県立青少年センター

活動の様子



スパイラル。視点をえて見る体験



学校現場での体験について



グループワーク。職員ができることは？



それぞれの思いを共有



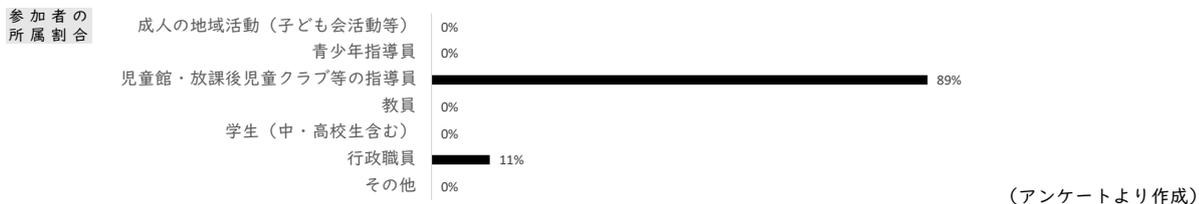
他グループのパネルを共有



まとめ。各現場での実践に活かせるように

プログラム

- ・学校現場での観察力や子どもの心に寄り添う対応法（講義）
- ・質疑応答
- ・グループワーク



参加者の声
(抜粋)

低学年、中学年、高学年と学年による対応など学べたし、グループ分けして色々な方と意見交換できた。途中休憩も挟んだので2時間は適切でした。

私は7月にパートナー登録したばかりで、まだプラザでは働いていません。実際に子ども達と接する前に、子ども達への関わり方のポイントや見守り方のポイントを学ぶことができ、とても有意義な研修となりました。現場に出た際は今回のポイントを思い出しながら実践してみたいと思いました。

講師の方が学校の先生でしたので、事例をまじえた説明が大変参考になりました。また、パネル作りでは、子どもがなくてほしい姿にするために、パートナーとしてどうすればいいか考えました。プラザの雰囲気を作るのは、子どもだけではなく、パートナーでもあることに気づきました。子どもたちと共に安全で居心地のいい居場所作りをしていきたいと思いました。

評価

事前に小学校ふれあいプラザの現場を視察し、昨年の参加者のふり返りの声を反映させたプログラムを構成することができた。参加者同士の意見を共有するためのグループワークを後半で実施することで、学校の異なる職員同士の横のつながりも確保できたのではないかと感じた。

課題

講義による説明と質疑応答に時間がかかってしまい、グループワークの時間を確保するために個人ワークを説明のみとした。参加者の声を引き出すことに重きを置いた構成を検討する必要があると感じた。大変意欲の高い職員が多い組織なので、次年度以降も共催として関わっていただけるとありがたい。

座間市放課後子ども教室スタッフ研修会

講師 青少年センター職員

目的 市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年教育活動を積極的に推進するため。

企画の経緯 座間市こども育成課の依頼により、放課後子ども教室スタッフを対象とする研修を企画した。
小学生との関わり方に係る講義及びレクリエーションゲームのワークショップを実施し、地域における青少年支援・指導者の指導力の向上を目標とした。

日時 11/18(火)10:00～12:00

会場 サニープレイス座間1階活動室

参加対象 放課後子ども教室スタッフ

参加人数 24人

広報手段 主催団体の募集による

共催等 【主催】座間市
【共催】県立青少年センター

プログラム

- ・講義、ワークショップ
「楽しい！を仕掛けるコミュニケーション」

活動の様子



今年オープンの「サニープレイス座間」



スタートはハンドゲームから



出合いのゲームの時点で既に大歓声



グループワークを挟みつつ学びます



みなさんの熱意をピシピシ感じました！

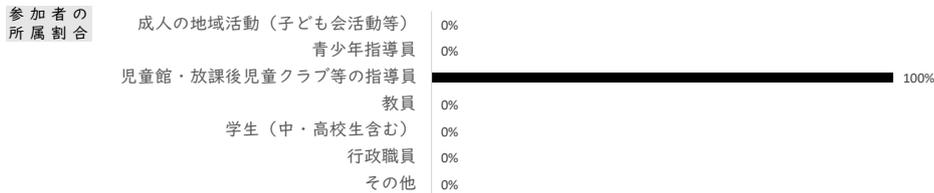


資料にはざまりんがふんだんに！

参加者の評価

		事業後の満足度	
		満足度が高い	満足度が低い
事業への期待度	期待度が高い	19人	0人
	期待度が低い	5人	0人

(左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。)



（アンケートより作成）

参加者の声
（抜粋）

レクリエーションの組み立て方は、実践演習をしながら分かりやすくご指導頂けたので、楽しい雰囲気の中、体験しながら学べて良かったです。支援者目線の観察のポイントのお話は大変参考になりました。子供たちと接する時に常に必要な知識だと思いました。このような講習をスタッフ全員が受けられるようになる事を願います。

とても学びのある研修でした。
日頃からしていた行動も、言葉であらためて学び、今までの自分の行動で良いと自信にもなりました。また放課後教室の短い時間ですが、子どもと向き合い、安全に、安心して過ごせる場所に更に行きたいと思いました。

現在教室で困っていることに関して直接お答えいただき勉強になりました。
実際教室で実施しやすい遊びや、レクリエーションの組み立て方も知れてよかったです。ありがとうございました。

評価	実施にあたり、昨年度実施したソーシャルワークの手法を用いたコミュニケーション方法の内容を踏まえ、シリーズものとしても受講できる内容を組み立てた。他市施設を実際に訪問して作成しており、現場に即したプログラムとして評価されている。	課題	子ども施設スタッフ等の事業向けに、コミュニケーションに係るプログラムをもう一つ整え、3部作としてまとめた。また、内容としては県域全体にニーズがあると考えられるため、今回の事例を生かす形で横展開も推進していきたい。
----	---	----	--

神奈川社会教育士会研修会「社会教育士に期待される役割」

講師 神奈川県教育委員会生涯学習課社会教育グループ社会教育主事 多々納 真治氏
横浜市立長津田小学校校長 佐藤 正淳氏

目的 市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年教育活動を積極的に推進するため。

企画の経緯 神奈川社会教育士会の依頼により、県内の社会教育関係者の学び合いを支援する観点から研修会場の確保に協力した。
また、青少年センター研修修了者に対し、当研修会を広報することで、青少年支援者の学習機会の提供及びネットワークづくりを図ることも目的とした。

日時 2/28(土) 13:30～17:00

会場 県立青少年センター研修室1

参加対象 神奈川社会教育士会、社会教育関係者及び当課研修修了者

参加人数 23人

広報手段 主催団体の募集、チラシの配架及び当課研修修了者向けの電子メールによる

共催等 【主催】神奈川社会教育士会
【共催】県立青少年センター

プログラム

- ・講話
「社会教育士に期待される役割」
- ・事例発表
「『共育・共創の学校』づくりのキセキ～未来への一歩“マインドチェンジ!”～」
- ・グループワーク
- ・青少年センター施設見学

活動の様子



会場は5グループの島型の配置で



県の社会教育主事から現況を報告



参加者に伝播していく講師の熱



AI駆使の側面からも先進的な事例



当課職員も今日は参加者として



立場を超えて語り合い、学び合う

参加者の声 (抜粋)

毎日Instagramを投稿されているという講師のお話から発信しなければ伝わらないことを改めて感じた。学校と地域の協働活動推進の軸は、自身のワクワクという言葉を大切にしたい。

社会教育士ができることはたくさんある。社会的にまだ認知されていない中で活動する難しさもあるが、今後の可能性も広がっていると感じた。

学校をブラックボックス化しないために子どもと地域の大人が直接語り合う場があるとよいと考えた。オセロではなくカラフルゾーンの中でやれることはある。

評価 事例の豊富な講師をお迎えし、一参加者として気づきや学び合いの多い充実した事業となった。
社会教育士の方々に実際に青少年センターに足を運んでいただき、各種事業を知り、関心を高めていただけたことにも価値があった。

課題 青少年センターの会場提供が実現し、館内各課の協力を得ながら有意義な事業が展開できた。主催団体の持つネットワークとの交流や教育委員会との協働から得たヒントを、当課の主催事業のブラッシュアップにも生かしたい。

青少年指導員セミナー

テーマ 第1回 場づくりに活かすインプロワークショップ

講師 インプロパーク主宰 鈴木 聡之氏
インプロパーク 黒田 めぐみ氏

第2回 青少年支援育成のためのコミュニケーションワークショップ～関わりの可能性を拓く～

講師 共育コーチング研究会代表 川本 正秀氏

第3回 豊かな人間関係を築くワークショップ ～怒りの取扱説明書～

講師 日本グループワークトレーニング協会理事長 三好 良子氏

目的 各地域の青少年指導員を対象に、青少年指導員の活動について理解を深め、より充実した活動の実践に役立つ研修を実施するとともに、参加者相互の交流を図り、今後の青少年支援・育成活動の一助とするため。また、事業は青少年センターと各地域県政総合センターとの共催で行い、将来的に青少年指導員育成事業を体系化するため。

企画の経緯 「かながわ青少年支援・指導者育成指針」に則って、県・市町村・青少年関係団体それぞれの役割分担と連携を明確にし、青少年指導員の裾野の拡大を目指して本研修を企画した。各地域県政総合センターでは、青少年指導員連絡協議会と協力して各市町村の初任向けの青少年指導員研修会を実施しているが、実態にあったテーマで講師を探すことが難しかったため、広域性の高い県立青少年センターで講師を選定し、本事業を共同開催とした。

日時 第1回 5/25(日)13:30～16:30
第2回 6/15(日)13:30～16:30
第3回 6/21(土)13:30～16:30

会場 第1回 平塚合同庁舎
第2回 厚木シティプラザ
第3回 横須賀合同庁舎

参加対象 令和7年度各市町村において新任委嘱された青少年指導員及び再任委嘱された青少年指導員

参加人数 第1回 42人
第2回 35人
第3回 34人

広報手段 各地域県政総合センターから市町村へのチラシの送付や電子メールによる
※政令市は別途実施

共催等 湘南地域青少年指導員連絡協議会・湘南地域県政総合センター
県央地域青少年指導員連絡協議会・県央地域県政総合センター
横須賀三浦地域青少年指導員連絡協議会・横須賀三浦地域県政総合センター

活動の様子



協力して助け合うゾンビゲーム(第1回)



息を合わせてパ〜ン(第1回)



コミュニケーション実践(第2回)



「聴くこと」について(第2回)



怒りの客観視(第3回)



経験した怒りの共有(第3回)

プログラム

【第1回】
・インプロワークショップ

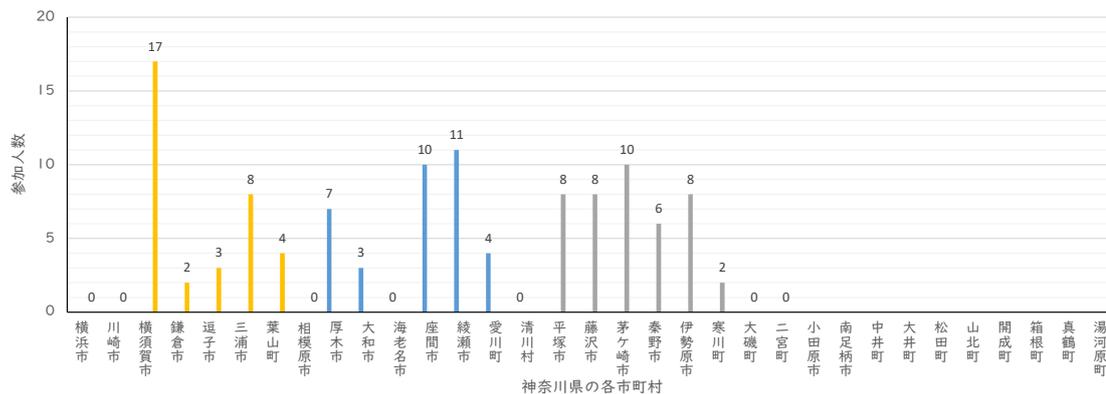
【第2回】
・子どもの自己肯定感を高めるコミュニケーションについて
・コミュニケーションワークショップ

【第3回】
・グループワークトレーニング体験
・怒りの取扱説明書について

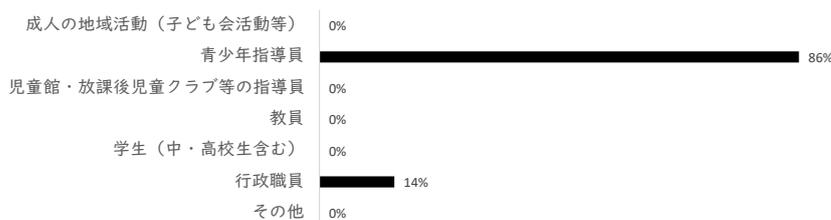
参加者の評価

	よかった	まあよかった	あまりよくなかった	よくなかった
研修への事前の期待度	60人	42人	3人	0人
研修を終えての満足度	96人	8人	2人	0人
研修内容について	100人	4人	2人	0人
講師について	100人	5人	0人	1人
研修の進行や職員の対応について	95人	9人	2人	0人

参加市町村の割合



参加者の所属割合



(アンケートより作成)

参加者の声 (抜粋)

実際に身体を動かして様々な人と関わることができ、とても楽しかったです。1つのプログラムごとに、実際に子どもと行うときに気を付けるべき点なども教えてもらい、大変勉強になりました。

いろいろな方との交流もあり、先生の進め方がとても良かった。先生が元気良くてこちらにも元気をいただきました。

学校で働いているので、現場で活かせるヒントがいっぱいあり先生たちにも伝えていきたい内容でした。

評価

どの地域においても参加者の方々の満足度が高く、充実した内容であった。アンケートの感想にも講師、内容、進め方等について好評なものが多く、今後の活動に活かせるものを提供できたのではないかな。

課題

今年度の6月下旬の日程ではすでに暑さが厳しく、3時間の研修なので、参加者の方々の体調面を考慮し次年度は日程を早めるなど日程調整をしていきたい。

NEALリーダー養成セミナー

テーマ 第1回 NEALリーダー養成セミナー
講師 国立青少年教育振興機構 古谷 洋祐氏
第2回 NEALリーダー養成セミナー
講師 公益財団法人キープ協会 関根 健吾氏

目的 身近な自然環境を活用したアクティビティ体験及び指導体験を通じ、学校及び団体で活動する指導者・支援者の指導力の向上を図るとともに、地域の環境特性を生かした自然体験活動、環境教育に理解を深めることで、地域に根差した子ども・若者の体験活動を推進する指導者・支援者の資質の向上に役立てるため。

企画の経緯 昨年度全国体験活動指導者認定委員会 自然体験活動部会に申請し、養成団体として認定を受けてから2回目の企画となった。NEALリーダーの有資格者を県内で増やしていき、自然体験活動がより盛んになるよう企画した。

日時 第1回 11/29(土)10:30～30日(日)16:30
第2回 12/14(日)10:00～16:30

会場 第1回 神奈川県立足柄ふれあいの村
第2回 神奈川県立青少年センター

参加対象 子どもたちと関わる青少年支援・指導者、教職員、保育士、学生、NPO団体スタッフ等

参加人数 第1回 15人
第2回 13人

広報手段 県機関・市区町村主管課・青少年関係団体へのチラシや電子メールの送付による

共催等 なし

プログラム

【第1回】
・自然体験活動の体験（ネイチャーゲーム等）
・講義：青少年教育の体験活動について
・焚き火（群読を含む）
・グループワークとしての実習準備
・自然体験活動の指導

【第2回】
・講義：インタープリテーションについて
・ワーク：自然体験活動指導者について
・講義：対象者理解
・講義：自然体験活動の安全管理
・認定試験

活動の様子



カモフラージュを体験(第1回)



講師の古谷さん(第1回)



焚き火を囲んで群読しました(第1回)



自然の王様(大盛り上がり)(第1回)



講師の関根さん(第2回)



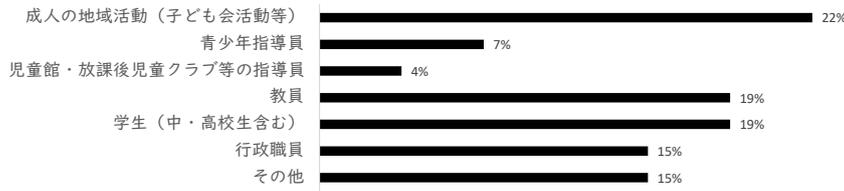
全員満点で認定されました!(第2回)

参加者の
評価

		事業後の満足度	
		満足度が高い	満足度が低い
事業への期待度	期待度が高い	25人	0人
	期待度が低い	1人	0人

(左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。)

参加者の
所属割合



(アンケートより作成)

参加者の声
(抜粋)

自然の楽しみ方、視点をたくさん教えていただけてとても嬉しいです。あしがらふれあいの村がすごく良いところ(自然の豊かさ)で驚きました。また来たいと思いました。まずは近場のフィールドで今回学んだことを試してみたいと思います。ありがとうございました。

和やかな雰囲気の中、理解し易く実践を交えながらの講習は大変有意義でした。年齢に関係なく参加者同士や講師とのコミュニケーションも取る機会が多く、講習以外にも楽しい時間が持てました。

講師の方々のお話や活動の指導法が大変勉強になりました。早速職場で活用していきたいです。また、育成課の方々が親切丁寧に説明してくださり、分かりやすかったです。3日間、大変充実したものになりました。

評価

今年度も意欲の高い参加者が集まり3日間完遂することができた。全員が認定を得たことは主催側として評価できる。参加者からも一定の評価が得られた。また、参加者同士の繋がりもでき、県としての行う事業の価値があった。

課題

直前で講師の変更もあったが無事に実施することができた。次年度以降は募集から実施までのスケジュールを見直すことでより参加者増につなげたい。

子どもの体験活動をすすめる指導者セミナー

子どもの安心感を高めるコミュニケーション編

テーマ 親業(ゴードンメソッド)の考え方を生かす

講師 NPO法人体験学習研究会 日能研調査開発室 親業訓練協会シニアインストラクター 武石 泉氏

目的 子どもの体験活動を促進する青少年支援・指導者を対象に、親業(ゴードンメソッド)の考え方を通して、子どもとの円滑なコミュニケーションの方法を、講義と実習で理解を図り、子どもが前向きな気持ちになる関係づくりの促進につなげるため。

企画の経緯 青少年育成に携わる人の中には、業務に不安を感じている方や、子どもとの関わり方に悩みを抱えている人が多く見受けられる。また、子どもとの体験活動をすすめるにあたって、子どもとの接し方や自然と触れ合う際の注意事項など、青少年支援・指導者のニーズは多岐にわたる。これらを踏まえ、実践的かつ段階的に学びを深められるよう、安全指導や子どもとのコミュニケーションに関わる研修を企画した。

日時 8/19(火)10:00~16:30

会場 神奈川県立青少年センター研修室I

参加対象 成人の青少年支援・指導者、教員、教員志望の学生、青少年行政関係職員、NPO団体スタッフ等

参加人数 25人

広報手段 県機関・市区町村主管課・青少年関係団体へのチラシの送付や電子メールによる

共催等 なし

プログラム

- ・アイスブレイキング(お弁当トランプ)
- ・PKT(べちゃくちゃタイム)
- ・信頼関係とコミュニケーション
- ・能動的な「聞く」体験
(赤いボール⇒白いボール)
- ・おさまりの12の型の確認
- ・「話す」スキルについて
(伝えたいこと⇒わたしメッセージ)
- ・「対立を解く」三法の紹介
- ・えんたくんミーティング
(自己調整力のある子の育て方)
- ・まとめ

活動の様子



講師の武石泉氏



アイスブレイキング「お弁当トランプ」



べちゃくちゃタイム



能動的に「聞く」体験



えんたくんミーティング



えんたくんの共有

参加者の評価

		事業後の満足度	
		満足度が高い	満足度が低い
事業への期待	期待度が高い	19人	0人
	期待度が低い	2人	0人

(左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。)

参加者の所属割合



(アンケートより作成)

参加者の声(抜粋)

親業メソッドのエッセンスをわかりやすく学ぶことができました。知識として知っていても、実際に実践すると難しいということも実感できました。機会があれば、また受講したいと思いました。参加者の所属や年齢が多岐にわたっていたこともよかったです。ありがとうございました。

今回の内容は、ぜひ、学校全体に周知していきたい内容であると感じました。正直、学校では、赤いボールを投げってしまう先生が多く、子ども達もそれで聞いている子がほとんどのためこれでいいのかと疑問を持っていました。今回受講したことで、使い分けることも大事ですが、白いボールを投げることのむずかしさ、能動的聞き方の大切さはやはり基本であると感じました。使いこなせるように普段の学校生活の中で積極的に活用していきたいと思っています。

今日は貴重な体験研修をありがとうございました。親業という初めて聞く言葉に興味を持ち、参加してとても楽しかったです。専門家の講習は、最後には専門家に任せて終わりになる話が多く、物足りない事がありました。今日は身近な経験談も多く、現場に活かせることばかりでした。私は、怒れないタイプなのですが、能動的に話を聞くことならばすぐに出来そうです。購入した本もじっくり読んでみます。企画・開催してくださり、ありがとうございました。

評価

期待度も満足度も大変高い研修となった。親業について、ほぼ無知の参加者が多かったが、とても分かりやすく、体験を交えて研修を進めていただけた。後半のえんたくんミーティングも積極的に意見を出し合っていて、学びを深めることができていた。ニーズのあるテーマだったことに加え、夏休みの期間中に実施できたことも、久々に定員を超える事業となった要因であった。

課題

申込多数で、参加者の評価も高く、非常に満足度の高い研修であったが、内容が青少年指導者(教員含む)に限定するのはもったいなかった。センター全体への周知をもっと行い、青少年サポート課など他課からの参加も呼びかけるようにすべきであったので、次回以降に検討したい。

子どもの心を動かすアイスブレイキング

- テーマ **第1回 仲間づくりに役立つアクティビティ体験**
講師 湘南白百合学園小学校 教諭 加藤 直樹 氏
第2回 アクティビティ進行のリハーサル①
講師 青少年センター職員
第3回 アクティビティ進行のリハーサル②
講師 青少年センター職員

目的 青少年の支援・指導者に対し、体験学習の手法を使ったさまざまなプログラムの指導法や展開法の体験の場を提供することで、子ども・若者のコミュニケーション能力の向上に役立つ技術の普及を図るため。

企画の経緯 アクティビティの手法を学ぶ方法は、インターネットや書籍が多く、体験的かつ実践的に学べる機会、及び準備や練習をする機会も少ない。そこで、多様な角度で普段から子どもたちと関わる指導者を集め、ともに体験し、互いの実践を経験し合うことで、そのスキルを向上させたり、指導者同士のつながりをつくり出すことができるように企画した。

日時 第1回 7/19(土)13:00～16:30
第2回 7/23(水)10:00～16:30
第3回 8/10(日)10:00～16:30

会場 第1回 神奈川県立青少年センター
第2回 神奈川県立青少年センター
第3回 プロミティあつぎ

参加対象 成人の青少年支援・指導者（青少年指導員、子ども会育成者、教員、子ども施設指導員、居場所施設職員、引きこもり支援団体職員、青少年関係団体職員等）

参加人数 第1回 9人
第2回 9人
第3回 14人

広報手段 (1) チラシを関係機関にメールで送付することによる。
(2) 総合教育センターより公立学校に研修講座一覧を送付することによる。
(3) 総合教育センターのウェブページ「研修講座案内」に掲載することによる。

共催等 なし

活動の様子



第1回講師の加藤さん（第1回）



じゃんけんチャンピオン！（第1回）



リハーサルのための打合せ（第2回）



リハーサル開始！（第2回）



互いのアクティビティを体験（第3回）



最後はみんなで振り返り（第3回）

プログラム

【第1回】

- ・ハンドゲーム
- ・じゃんけんゲーム
- ・知り合うゲーム
- ・名前を覚えるゲーム
- ・自己開示系のゲーム
- ・心の抑制を取るゲーム
- ・イニシアティブゲーム
- ・トラストゲーム
- ・振り返り

【第2回】

- ・アイスブレイキングの体験
- ・アクティビティ進行のリハーサル
- ・振り返り

【第3回】（第2回と同一）

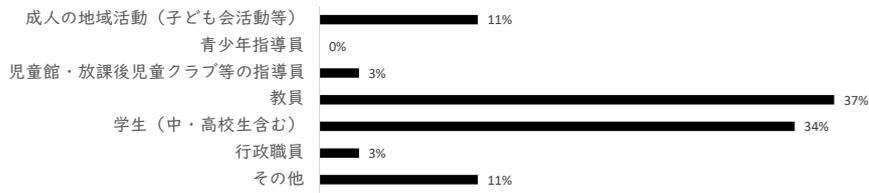
- ・アイスブレイキングの体験
- ・アクティビティ進行のリハーサル
- ・振り返り

参加者の
評価

		事業後の満足度	
		満足度が高い	満足度が低い
事業への期待度	期待度が高い	32人	0人
	期待度が低い	3人	0人

(左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。)

参加者の
所属割合



(アンケートより作成)

参加者の声
(抜粋)

充実した一日になった。この間はアイスブレイキングについて学び今日は指導者としての経験として出来てよかった。色々な指導の仕方やゲームがわかってよかった。自分だったらどうするか?を振り返りから学ぶことが出来た。

アイスブレイクに有効なアクティビティを多種知ることができて良かったです。また、それぞれのアクティビティに違った効果があること、効果をより強化するため構成にも工夫が必要であることを知ることができました。現場で活用できると思います。

アクティビティの進行の際、人前でしゃべることよりも、振り切って明るく場の雰囲気を作っていくことの方の難しさを感じた。最後全員で振り返っているときに、自分の性格のままが良いということを聞いて、自分が無理に性格を取り繕って盛り上げなくても良く、チームにいるなら適任者に任せつつ自分ができる役割をこなすことも大事なんだと思った。高齢者とアイスブレイクをするときに盛り上がりそうだと感じたものもあったので、これから地域の人と関わる機会があった時にいかしていけたら良いと思った。

評価

体験を通した学びのプログラムで、参加者からの評価の高い研修になった。まずは、参加者がアイスブレイキングの効果を体験し、その後指導体験をすることによって「自分ならどのように行か?」を考えられる研修になった。

課題

リハーサルを行うにあたって、振り返りの方法やフィードバックの活用方法を考えていきたい。また、グループではなく個人で行うような指導体験の形も模索していきたい。

対話で変わるチームビルディング

テーマ 第1回 グループワークの体験①

講師 青少年センター職員

第2回 グループワークの体験②

講師 青少年センター職員

目的 青少年の支援・指導者に対し、体験学習の手法を使ったさまざまなプログラムの指導法や展開法の体験の場を提供することで、子ども・若者のコミュニケーション能力の向上に役立つ技術の普及を図るため。

企画の経緯 様々な現場で取り組まれているグループワークを、チームビルディングの観点から再評価し、一日で様々な手法（アイスブレイキング、コミュニケーションゲーム、コンセンサスゲーム及びイニシアティブゲーム）を体験できるように本研修を企画した。

日時 第1回 7/20(日)10:00～16:30

第2回 7/29(火)10:00～16:30

会場 第1回 神奈川県立青少年センター研修室1、2

参加対象 成人の青少年支援・指導者

(青少年指導員、子ども会育成者、教員、子ども施設指導員、居場所施設職員、引きこもり支援団体職員、青少年関係団体職員、子どもを支援するNPO団体スタッフ等)

参加人数 第1回 10人

第2回 11人

広報手段 ・関係機関へのチラシ送付による
・総合教育センターより公立学校に研修講座一覧を送付、および総合教育センターのウェブページ「研修講座案内」内での案内による

共催等 なし

プログラム

- ・オリエンテーション
- ・アイスブレイキング
- ・集団目標設定のアクティビティ「be-ing」
- ・コミュニケーションゲーム「なぞの宝島」「パスは待ってこない」
- ・コンセンサスゲーム「宝島を脱出せよ」
- ・イニシアティブゲーム「キーパンチ」
- ・全体まとめ「体験学習について」

活動の様子



多くの先生たちが参加しました（第1回）



盛況のアイスブレイキング（第2回）



カードを用いて自然に協力（第1回）



成長を共有するふりかえり（第2回）



体験後は理論的におさらい（第1回）



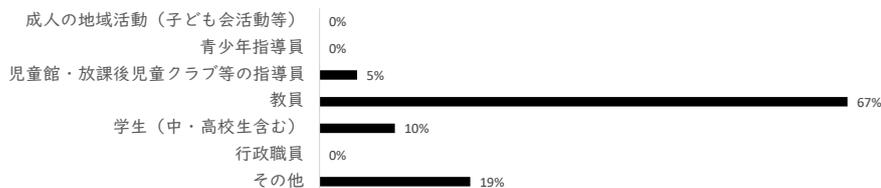
グループからチームへ（第2回）

参加者の評価

		事業後の満足度	
		満足度が高い	満足度が低い
事業への期待度	期待度が高い	15人	0人
	期待度が低い	4人	0人

(左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。)

参加者の所属割合



(アンケートより作成)

参加者の声(抜粋)

最初は緊張からか上手く馴染めなかったが、活動や内容が深まっていくにつれて徐々に体験が楽しくなってきました。また、活動する内容も、交流度に応じて対応しなければ上手く行かないものもあると感じたので、現場で実践するにはしっかり計画を立てて、実践していきたいと感じました。

チームビルディングは、本で読んだりネットで見たり、知ってはいたけど、、、ということも、自分が実際に体験でき、学びがたくさんあって、参加できて、本当によかったです。ありがとうございました。やってみることは大切！2学期に、子どもとやりたいです。

青少年センターで(以前この事業で)習った、ラインナップ～ネームトスまでの流れを学級で行った。学級全体として仲がいい空気が作られ、クラスに馴染めるようになった人が多くなった。結果、長欠の人が1人も出なかった。

評価

グループワーク・トレーニング理論から集団づくりの手法を学ぶ、意義ある事業になった。①アイスブレイキング、②コミュニケーションゲーム、③コンセンサスゲーム、④イニシアティブゲームと続くプログラムは頭も体も動かせる構成で取り組みやすい。次年度も同様に実施したい。

課題

小学校や夜間中学校、定時制高校、通信制高校等などに周知するチャンネルを増やすとともに、例えば総合教育センターや大学での実施など、会場についても変更の可能性を模索しながら、事業の目的を果たせるよう検討を進めていきたい。

子ども施設指導員セミナー

- テーマ 第1回 驚き！発見！科学工作①
講師 県立青少年センター科学部科学支援課 山田 幸一氏
県立青少年センター科学部科学支援課 藤野 秀一朗氏
県立青少年センター科学部科学支援課 山西 康介氏
- 第2回 心に寄り添うインプロワークショップ①
講師 株式会社インプロジャパン 峰松 佳代氏
株式会社インプロジャパン 鉢山 あきこ氏
株式会社インプロジャパン 和田 英利氏
- 第3回 子どもイキイキ集団あそび①
講師 駒澤大学非常勤講師 川手 隆生氏
- 第4回 心に寄り添うインプロワークショップ②
講師 株式会社インプロジャパン 峰松 佳代氏
株式会社インプロジャパン 鉢山 あきこ氏
株式会社インプロジャパン 和田 英利氏
- 第5回 子どもイキイキ集団あそび②
講師 駒澤大学非常勤講師 川手 隆生氏
- 第6回 驚き！発見！科学工作②
講師 県立青少年センター科学部科学支援課 小川 敦喜氏
県立青少年センター科学部科学支援課 山西 康介氏

目的 子ども施設（児童館等）の指導員を対象に、子ども・若者が自ら成長するための環境づくりや支援をするために必要な知識・技術の習得と能力の向上を図るため。

企画の経緯 この研修は県・市町村で構成されていた「神奈川県公立青少年育成施設連絡協議会」の事業を引き継ぎ、子ども施設指導員がすぐに現場で活用できるスキルを学ぶことができるよう、県立青少年センターが企画している。

日時 第1回 6/18（水）10:00～12:00
第2回 7/10（木）10:00～13:00
第3回 9/11（木）10:00～13:00
第4回 10/8（水）10:00～13:00
第5回 11/11（火）10:00～13:00
第6回 12/3（水）10:00～12:00

会場 第1回 厚木シティプラザ
第2回 県立青少年センター
第3回 県立青少年センター
第4回 鎌倉市玉縄青少年会館
第5回 小田原合同庁舎
第6回 横須賀市役所

参加対象 青少年育成施設及び類似施設の職員

プログラム

- 【第1回】
身近な材料で作れる科学工作の体験
- 【第2回】
インプロシンキングワークショップの体験
- 【第3回】
「集団遊び」をテーマに、あそびの体験と指導体験
- 【第4回】
インプロシンキングワークショップの体験
- 【第5回】
「集団遊び」をテーマに、あそびの体験と指導体験
- 【第6回】
身近な材料で作れる科学工作の体験

参加人数 第1回 54人 第4回 23人
 第2回 14人 第5回 15人
 第3回 27人 第6回 22人

広報手段 各市町村の子ども施設を主管する部署への広報による

共催等 【共催】厚木市（第1回）【共催】横須賀市（第6回）

活動の様子



どんな作品ができるかな（第1回）



まずはストレッチから（第2回）



参加者による遊びの指導体験（第3回）



ペアによって変わる表現（第4回）



大人が本気であそびを体験（第5回）



難しいから楽しい3D人形（第6回）

参加者の
評価

		事業後の満足度	
		満足度が高い	満足度が低い
事業への期待度	期待度が高い	114人	2人
	期待度が低い	49人	0人

（左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。）

参加者の
所属割合

成人の地域活動（子ども会活動等）	0%
青少年指導員	0%
児童館・放課後児童クラブ等の指導員	100%
教員	0%
学生（中・高校生含む）	0%
行政職員	0%
その他	0%

（アンケートより作成）

参加者の声
（抜粋）

和やかな雰囲気でお話もでき、色々な意見交換ができました。オンラインでの研修が多い中、皆さんと実際に遊びができたことに感謝です。

仕事が好きな子が多く毎日いろいろな物を作っているの、今日教えていただいたものもすぐに用意して楽しみたいと思います。いろいろな知識も面白く、日常の会話の中に散りばめて、子どもたちの世界が広がる一助にしたいと思います。

自分のアウトプットに対してすぐにフィードバックがあるため、経験の補充として非常に有意義だった。“発信”と“受信”という言葉化を得たため、アンテナの感度が上がったように思える。

評価

どのテーマも体験と言語化する時間があり、経験と理解の両方を習得できたことが満足感につながったとアンケートから読み取れる。また、指導員同士で日頃感じている課題を話し合う場面もあり、意見交換の場としてもニーズを感じた。

課題

アンケートで座ってできる遊びや室内遊び中心のセミナーの要望があったり、セミナー中の雑談からも、安全面やハード面で悩んでいる現状が伺えた。今回のテーマについても定期的な実施は望まれるが、現場に寄り添った新たなテーマも引き続き模索していきたい。

リードアップセミナー

テーマ 第1回 地域の青少年のために、私たちに何ができるか

講師 駒澤大学非常勤講師 川手 隆生氏
青少年センター職員

第2回 まずは、体験 ～自然体験活動の企画・運営を見据えて～

講師 青少年センター職員

第3回 地域に生きるカーわかもの参画の事例～

講師 (一社) FROM PROJECT代表理事 竹内 董氏
青少年センター職員

目的 県・市区町村や青少年関係団体等の青少年育成に携わる新規採用及び転入職員・スタッフ等を対象に、効果的な職務の遂行に必要な知識と技能の向上を図る研修を実施するとともに、参加者相互の交流を深め、青少年育成のための連携・協力の促進を図るため。

企画の経緯 初めて青少年育成の業務に携わる際、体系的な知識や現場での子どもとの関わり方に不安を感じるケースが多く報告される。また、その活動は安全管理やアクティビティの進行など、ある程度の専門性が求められる場合もある。これらを踏まえ、基本的な知識を提供し、さらに体験することで実践的に学ぶことのできるプログラムを企画した。

日時 第1回 5/7(水)10:00～16:30
第2回 5/21(水)10:30～5/22(木)15:30
第3回 5/30(金)10:00～16:30

会場 第1回 神奈川県立青少年センター
第2回 神奈川県立愛川ふれあいの村、愛川町
第3回 神奈川県立青少年センター

参加対象 県・市区町村・青少年関係団体等で、令和7年度に青少年育成に携わる新規採用職員及び転入職員・スタッフ等（2・3年目の職員・スタッフで、これまでに参加していない方も受講可能）。
※第2回（宿泊研修）については、初任者研修等を担当する県教育局職員も含む。

参加人数 第1回 28人
第2回 10人
第3回 25人

広報手段 県機関・市区町村主管課・青少年関係団体へのチラシや電子メールの送付による

共催等 なし

活動の様子



地域と歩む川手氏と事例探究（第1回）



キーワードから事業企画へ（第1回）



カレーにもコツがあるようで（第2回）



子ども心と達成感を持ち帰る（第2回）



竹内氏と考える、若者とまち（第3回）



地域をつなぐ人材を目指して（第3回）

プログラム

【第1回】
・アイスブレイキング体験
・講演、ワークショップ
「地域の青少年のために、私たちに何ができるか」

【第2回】
・アイスブレイキング体験
・チームビルディング体験
・火おこし・カレーづくり体験
・ウォークラリー体験等

【第3回】
・アイスブレイキング体験
・講義、ワークショップ
「施策『かながわ青少年支援・指導者育成指針を読む』」
・講義、ワークショップ
「地域に生きるカーわかもの参画の事例～」

参加者の評価

		事業後の満足度	
		満足度が高い	満足度が低い
事業への期待度	期待度が高い	22人	0人
	期待度が低い	1人	0人

(左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。)

参加者の所属割合



(アンケートより作成)

参加者の声 (抜粋)

本日のセミナーで、青少年と関わる上でどのような接し方が求められるのか考えることができた。実際に身をもって体験したことで、より深く理解することができ、今後の業務に活かしていきたいと感じた。また、普段はあまり関わりのない他の市町村の人とも交流し、つながりができ良かった。

野外炊事からフォトラリーまで、今まで自分が幼い頃にしていた体験を大人になり経験できとても良かったです。自分が指導者側の立場になるため、この経験を活かして業務に努めていきます。

県職員のため、青少年に直接関わることはなかなかないが、彼らへの正しい接し方等を改めて学ぶことができた。

評価

例年行っている構成の中、当課で作成している「用語集」を活用したり、「えんたくん」を用いたりする工夫を盛り込んだ。青少年行政職員にとっては、自身の業務担当だけでなく、様々なプレイヤーや研修方法を知る機会としても機能し、「地域」の解像度が高まる事業となった。

課題

第3回講師の竹内氏の講義の進め方のうち、インタラクティブに活発な学びをデザインする工夫が非常に参考になった。私たちも、研修の内容だけではなく進め方にも気を配り、単なる例年通り、前例踏襲に陥らないようよりよい方法を模索したい。

アップスキリングプロジェクト

テーマ **輪が広がる・楽しく話せる一日限りのファン感' 25 in 紅葉ヶ丘**
講師 **青少年センター職員**

目的 県・市区町村等の青少年育成に携わる職員等を対象に、効果的な職務の遂行に必要な知識と技能の向上を図る研修を実施するとともに、参加者相互の交流を深め、青少年を育成し青少年活動を支援するための連携・協力の促進を図るため。

企画の経緯 青少年育成や行政の業務には、幅広い知識や技能が求められる。研修事業実施後のアンケートで「様々な青少年育成者と交流を深める」「様々な悩みを持つ青少年育成者同士で、定期的に学びを深め合う」ことへの要望が複数あがった。その機会を受講者に提供することで、既に持っている知識や技能をさらにアップスキリングさせるため、本研修を企画した。

日時 2/18(水)14:00～16:30

会場 神奈川県立青少年センター研修室1

参加対象 青少年関係の行政、団体及び施設職員等の中で、今年度指導者育成課の研修事業を受講した者

参加人数 11人

広報手段 県機関・市区町村主管課・青少年関係団体・NPO団体への案内送付や電子メールによる

共催等 なし

活動の様子



名刺を交換しながら自己紹介タイム



グループワーク①情報交換会



様々な研修事業の様子を知れました



グループワーク②次年度にチャレンジしたいこと



ワールドカフェ交流。さらに議論が深まりました



1年間の健闘を称え、アップスキリング賞を授与！

プログラム

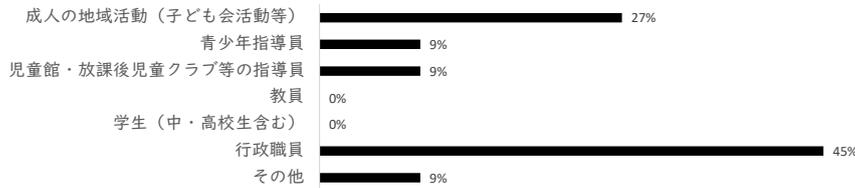
- ・自己紹介・アイスブレイキング
- ・グループワーク①情報交換会
- ・グループワーク②次年度に向けて
- ・ワールドカフェ交流会
- ・参加者への表彰

参加者の
評価

		事業後の満足度	
		満足度が高い	満足度が低い
事業への期待度	期待度が高い	9人	0人
	期待度が低い	2人	0人

(左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。)

参加者の
所属割合



(アンケートより作成)

参加者の声
(抜粋)

本日はありがとうございました。時間が午後からで参加しやすく、立場や業務が異なる人と意見などをたくさん交換できたのが貴重な経験でした。また、来年度の自分の目標について、解像度を上げる機会になりました。来年度もよろしくお願ひします。

県の方をはじめ、参加者の皆さんの業務への姿勢や考え方も大変勉強になりました。他市の方々と意見交換や共有したことを、事業のイベントに活かしたいと思ひます。研修の参加回数が少ないにも関わらず、優しく声かけをしていただき、参加しやすい雰囲気を作ってくださいありがとうございました。

本日はありがとうございました。
zoom初めての参加でしたが思ってた以上にスムーズでした！対面には勝てませんが、とても助かりました！懇親会も行きたかったなあー。

評価

研修事後調査とのコラボで企画したが、当課研修事業の受講者を対象としたことで、さながら同窓会のような雰囲気が開始から醸し出されていた。他の職種または他の研修事業受講者との交流は、予想以上に盛り上がった。他の研修について知ること、次年度も当課の事業に参加しやすくなるメリットもあると感じられた。応募数の増加が冬期の事業の課題であったが、オンラインの参加を認めたことで受講者を確保できたことも良かった。今後も受講者の声に耳を傾けていきたい。

課題

開催時期。年度末で、参加者にとってやや慌ただしい時期になってしまったように思われる。もう少し良い時期がないか、検討の余地がある。
また、グループワーク①で情報交換を行い、グループワーク②で次年度チャレンジしたいことをテーマに話し合ったが、より話し合いのつながりを強くしていくのであれば、②で「当課研修事業の改善点」などを話し合っても良かった。

ユースボランティアセミナー

テーマ **第1回 野外炊事マスターになろう！自然体験の楽しさを知ろう！**

講師 青少年センター職員

第2回 アクティビティの引き出しを増やそう！

講師 青少年センター職員

目的 地域等で活動している若者や、あるいはこれから活動しようとしている若者を対象に、野外活動やレクリエーション活動の体験を通じた知識や技術を習得させ、地域活動等で活躍するボランティア等の育成を図るため。

企画の経緯 子ども会やジュニア、ユース・リーダーの数は減少傾向にある。しかし、これら団体の地域への貢献は大きく、活動の活性化や魅力の発信をしたい。そこで、これらの団体に所属している方も含め、様々な年代の青少年育成に関心のある方を対象に、野外活動やレクリエーション活動を実践的に行うことで、青少年育成への関心を高めるために本セミナーを企画した。

日時 第1回 6/7(土)10:00~6/8(日)16:00

第2回 6/22(日)13:45~16:30

会場 第1回 川崎市黒川青少年野外活動センター

第2回 厚木シティプラザ サイエンスホール250

参加対象 将来子どもと関わりたい中学生~30歳未満の学生等

参加人数 第1回 10人

第2回 11人

広報手段 県内市町村青少年主管課より地域のジュニア・リーダー、ユース・リーダーへの周知、神奈川県子ども会連絡協議会より周知による。また、神奈川県庁広報Xによる投稿、県内大学への広報などによる。

共催等 【共催】神奈川県子ども会連絡協議会・厚木市

プログラム

【第1回】

- ・アイスブレイキング
- ・いろいろな火起こし
- ・野外炊事
- ・ナイトプログラム
- ・朝のつどい
- ・朝食づくり
- ・竹のカップづくり
- ・流しそうめん
- ・自然体験活動

【第2回】

- ・アクティビティ体験
- ・アクティビティ検討
- ・アクティビティ実演

活動の様子



第1回開会 テーマは「輪」(第1回)



虫眼鏡で火起こし(第1回)



火起こしからの野外炊事(第1回)



流しそうめん(第1回)



森のレストラン開店(第1回)



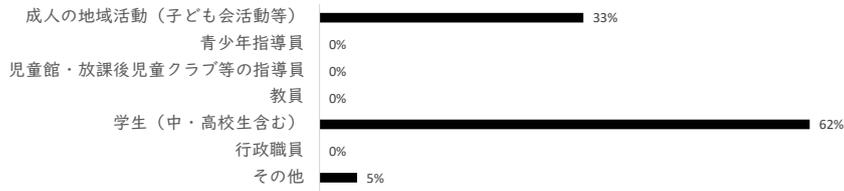
第2回も楽しく行われました!(第2回)

参加者の評価

		事業後の満足度	
		満足度が高い	満足度が低い
事業への期待事前	期待度が高い	17人	0人
	期待度が低い	2人	0人

(左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。)

参加者の所属割合



(アンケートより作成)

参加者の声(抜粋)

とても楽しかったです！竹でカップと箸には感動しました。また参加したいです。

またこのような活動があったら行きたいと思った。

人前でアクティビティやゲーム進行をするのが久しぶりで難しいところもあったが、コツを学びたいし直接感想をきけてよかった。

評価

第1回、第2回ともに参加者の反応がよく、意欲的であった。多くの内容を盛り込み、学びを広げることができた。また、県内のジュニアリーダーが市町村を超えて集まり、輪を広げることができた点は評価できる。

課題

参加者増のために、例えば県西地域・県央地域・湘南地域に分け、それぞれの場所で開催するなど会場を精査することや市町村と連携しジュニア・リーダーの活動費として予算を確保してもらおうといったことを検討したい。

イベントボランティアセミナー

子どもフェスティバル出展大作戦！

テーマ 第1回 企画会議①

講師 青少年センター職員

第2回 企画会議②

講師 青少年センター職員

第3回 企画会議③

講師 青少年センター職員

第4回 企画会議④・リハーサル

講師 青少年センター職員

文化スポーツ観光局文化課 紅葉ヶ丘駐在事務所 舞台技術コーディネーター 池谷 駿 氏

文化スポーツ観光局文化課 紅葉ヶ丘駐在事務所 舞台技術師 緑 慎一郎 氏

第5回 イベント前日準備

講師 青少年センター職員

第6回 子どもフェスティバル・子ども会大会当日

講師 青少年センター職員

目的 子ども向けイベントに出展するボランティアとして、県内各地域のジュニア・リーダーやユース・リーダー（以下JL、YL）が、同じ志を持つ仲間と出会い、企画立案能力を高めるため。

企画の経緯 子ども会活動は活力ある地域社会づくりの観点から有意義である一方、その人数は減少傾向にある。その状況を踏まえ、子どもフェスティバルの機会をとらえて広く県民に子ども会活動を広報するとともに、出展と交流をとおしてJLやYLの資質の向上に役立てるため本研修を企画した。

日時 第1回 10/12(日)10:00～16:00

第2回 11/24(月・祝)10:00～16:00

第3回 12/21(日)10:00～16:00

第4回 1/25(日)10:00～16:00

第5回 2/7(土)8:45～16:00

第6回 2/8(日)8:30～17:00

会場 第1回 神奈川県立青少年センター研修室Ⅰ

第2回 神奈川県立青少年センター研修室Ⅰ

第3回 神奈川県立青少年センター研修室Ⅰ

第4回 神奈川県立青少年センター研修室Ⅰ

第5回 神奈川県立青少年センター交流スペース他

第6回 神奈川県立青少年センター交流スペース他

参加対象 高校生以上のJL、YL

*2月8日(日)子どもフェスティバル当日は中学生のJLも参加可

参加人数 第1回 5人

第4回 18人

第2回 7人

第5回 18人

第3回 16人

第6回 23人

広報手段 県内市町村青少年主管課より実施する各ジュニア・リーダーズ・クラブ（JLC）への周知及び神奈川県子ども会連絡協議会より実施する各市町村子ども会連絡協議会等への周知による

共催等 【共催】神奈川県子ども会連絡協議会

プログラム

【第1回】

- ・アイスブレイキング
- ・子どもフェスティバルの理解

【第2回】

- ・イベント内容の検討
- ・タイトルの決定

【第3回】

- ・イベントの進行方法の検討
- ・準備物の確認

【第4回】

- ・司会と活動発表のリハーサル①
- ・物品の作成

【第5回】

- ・司会と活動発表のリハーサル②
- ・館内の装飾

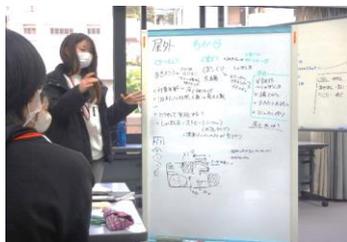
【第6回】

- ・イベント当日の運営

活動の様子



毎回、模造紙に目標を加えます (第4回)



JLも積極的にアイデア出し (第4回)



たくさんの昭和の遊びを提供 (第6回)



薪割り&火おこしも盛況🔥 (第6回)



スタジオでは歌って踊って♪ (第6回)



絆が深まる4か月間でした◎ (第6回)

参加者の評価

		事業後の満足度	
		満足度が高い	満足度が低い
事業への期待度	期待度が高い	84人	3人
	期待度が低い	3人	0人

(左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。)

参加者の所属割合



(アンケートより作成)

参加者の声 (抜粋)

みんなも自分も笑顔いっぱい！元気いっぱい！ →たくさん見られた(^)
「こども」目線で！寒さに負けない！ →がんばった！

たくさん笑う にっこり笑顔(^)
知らなかったけど楽しい！昭和っていいね！

舞台のゲームがんばる →舞台のゲームがんばった！

評価

4か月にわたる事業ということで紆余曲折がありつつも、イベント当日はリーダーひとりひとりが大きな達成感に包まれる事業とすることができた。各地から持ち寄ったジュニア活動のノウハウが生かされるとともに、各自が感じた学びを各地に持ち帰ることもできる事業となった。

課題

ジュニア活動はあくまで内発的動機に基づく自発的な活動であるため「動員」とならないよう留意が必要である。一方で応募人数の増加に向け、火おこしの指導方法が学べるといった具体的に持ち帰ることのできるスキルを示すなど工夫し、参加しやすい環境づくりを整えていきたい。

キャンプ活動セミナー

テーマ 第1回 キャンプ活動セミナー

講師 青少年センター職員

第2回 キャンプ活動セミナー

講師 厚木市七沢ふれあいセンター 藤井 睦氏
青少年センター職員

目的 子どもと理解しあうために有効なコミュニケーションスキルを、野外活動を中心とした体験型ワークショップによって学ぶ。また、受講者自身が参画する構成により自主・自律の精神を高めるとともに、同じ志を持つ仲間と過ごすことにより自分の軸を模索するため。

企画の経緯 将来、子どもと関わる職業に就きたいと考えている若者のコミュニティを作り、参加者の野外活動のスキルを向上させたいと考えたため。

日時 第1回 8月23日（土）

第2回 8月29日（金）～8月30日（土）

会場 第1回 神奈川県立青少年センター

第2回 厚木市七沢自然ふれあいセンター

参加対象 子どもと関わりのあるまたは関わろうとしている大学生年代の若者

参加人数 第1回 6人

第2回 8人

広報手段 県機関・市区町村主管課・大学・総合教育センターティーチャーズカレッジへのチラシの送付による

共催等 なし

プログラム

【第1回】

- ・アイスブレイキング体験
- ・コミュニケーションゲーム体験
- ・宿泊時のレクの企画

【第2回】

- ・アイスブレイキング体験
- ・レクの企画・実施
- ・係分担、打ち合わせ
- ・野外炊事
- ・自然体験活動
- ・リバートレッキング
- ・振り返り

活動の様子



アイスブレイキング（第1回）



葉っぱじゃんけん（第2回）



ひも切り式で火をつける！（第2回）



おいしいカレーをいただきます！（第2回）



リバートレッキング①（第2回）



リバートレッキング②（第2回）

参加者の
評価

		事業後の満足度	
		満足度が高い	満足度が低い
事業への期待の事前	期待度が高い	14人	0人
	期待度が低い	0人	0人

(左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。)

参加者の
所属割合



(アンケートより作成)

参加者の声
(抜粋)

小学校の時のようなレクリエーションを今体験することによってまた違った考え方をまなべてとても良かった。

教員になった際に活用したいと思うアイスブレイクやみんなで協力してやることの大切さをたくさん学ぶことができた。

全3回の会通していい経験や学ぶことが多くとても楽しかったです。参加者同士で思いを共有する、話し合う時間もあっているような考え方があると感じました。将来の職へ活かせるヒント得られて良かったです。ありがとうございました。

評価

「自分の軸を作る」というテーマのもと、子どもと関わる際の思いを共有する研修が実践できた。今後も、若者のコミュニティ作りのきっかけになれるよう継続して行きたい。

課題

参加者の集客に課題があるため、今後は内容や対象を変更してニーズに合った研修事業にしていきたい。

子どもキャンププロジェクト

～新しいことにチャレンジして、夢中になれるキャンプを～

テーマ 第1回 子どもキャンププロジェクト①

講師 青少年センター職員

第2回 子どもキャンププロジェクト②

講師 青少年センター職員

第3回 子どもキャンププロジェクト③

講師 青少年センター職員

第4回 子どもキャンププロジェクト④

講師 青少年センター職員

第5回 子どもキャンププロジェクト⑤

講師 青少年センター職員

第6回 子どもキャンププロジェクト⑥

講師 青少年センター職員

目的 子どもとのレクリエーション活動を企画・運営するグループを組織し、その運営やイベントの企画運営を通して、人間関係作りや子どもとの関わり方等を学び、地域活動等で活躍するリーダーやボランティア等の育成を図るため。

企画の経緯 将来子どもと関わる仕事に就きたいと考えている大学生年代の若者にとって、子どもたちのキャンプを企画・運営することは将来指導者になるにあたって重要な経験となるため本研修を企画した。

日時 第1回 11/8 (土) 10:00～16:30
第2回 12/13 (土) 10:00～16:30
第3回 1/18 (日) 10:00～16:30
第4回 2/15 (日) 10:00～16:30
第5回 2/27 (金) 10:00～3/1 (日) 17:00
第6回 3/8 (日) 10:00～16:30

会場 第1回 神奈川県立青少年センター
第2回 神奈川県立青少年センター
第3回 神奈川県立足柄ふれあいの村
第4回 神奈川県立青少年センター
第5回 神奈川県立足柄ふれあいの村
第6回 神奈川県立青少年センター

参加対象 子どもと関わっている又は関わろうとしている大学生年代の若者

参加人数 第1回 7人 第4回 7人
第2回 6人 第5回 26人
第3回 7人 第6回 7人

広報手段 指導者育成課の事業の参加者への周知、県内市町村青少年主管課への周知及び各大学への周知による

共催等 なし

プログラム

【第1回】

- ・アイスブレイキング
- ・グループワーク

【第2回】

- ・アイスブレイキング
- ・企画ミーティング

【第3回】

- ・神奈川県立足柄ふれあいの村施設見学
- ・企画ミーティング

【第4回】

- ・企画ミーティング
- ・リハーサル

【第5回】

- ・子どもキャンプ前日準備
- ・子どもキャンプ本番

【第6回】

- ・ふり返し
- ・動画作成

活動の様子



目的・スローガンの決定！（第1回）



皆で楽しむ！アイスプレイング（第2回）



県立足柄ふれあいの村下見(第3回)



キャンプ前リハーサル（第5回）



ウォークラリーの説明（第5回）



振り返りは次回以降に活かすために（第6回）

参加者の評価

		事業後の満足度	
		満足度が高い	満足度が低い
事業への期待度	期待度が高い	6人	0人
	期待度が低い	1人	0人

（左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。）

参加者の所属割合



（アンケートより作成）

参加者の声（抜粋）

自分たちで長い期間考えてきた企画を子どもたちの前で披露して楽しんでくれたよかった。スタッフ同士で助け合えてその中でも新しい学びや気づきや発見があって自分の今後の活動への生かせる要素を見つけることができた。

大きな事故やトラブルなく終了することができて、子どもたちの笑顔が見られて良かったです。ありがとうございました。

活動内の参加者やスタッフの動き方等で今後の生かせる大事な要素を学ぶことができました。個々も全体も準備が間に合わなくてこれいける？の不安がありましたが、なんとか無事に終わって良かったです。今回このプロジェクトで学んだことをいろんな場面で生かしていこうと思います。

評価

今年度は、キャンプになれた参加者と初めての参加者が混在し、プログラムの作成などバランスをとることが難しかった。しかし、キャンプ当日は参加者の工夫が小学生に伝わり、子どもと関わる楽しさや面白さを体験できたのではないかと。

課題

広報手段の見直しが改善点として挙げられる。大学生年代の集客は難しいので、サークルや部活動などとの連携を図りたい。

コミュニケーションスキルアップセミナー

テーマ インプロ・ゲームワークショップ ひらめく、つながる、心ときめく
講師 (株)インプロジャパン 峰松 佳代氏
(株)インプロジャパン 清水 千絵氏

目的 インプロビゼーション（即興劇）のアクティビティ体験を通じ、学校及び団体で活動する指導者・支援者のコミュニケーションスキルの向上を図るとともに、多様性への理解を深めることで、共生社会の実現に向けた取組みの推進を担う支援者・指導者の資質の向上に役立てるため。

企画の経緯 ともに生きる社会の根底には、個々の良好なコミュニケーションが欠かせない。アイスブレイキングやチームビルディングに活用できるインプロ・ゲームのワークショップという構成で、子どもと関わる若い世代がコミュニケーションについて改めて考え、成長を実感できるよう本研修を企画した。

日時 8/21(木)10:00～16:30

会場 神奈川県立青少年センター研修室I

参加対象 中学生から大学生年代を中心とした若手の青少年支援・指導者（青少年指導員、子ども会育成者、ジュニア・リーダー、ユース・リーダー、教員、子ども施設指導員、居場所施設職員、引きこもり支援団体職員、青少年関係団体職員等）

参加人数 19人

広報手段 (1) 関係機関へのチラシの送付による
(2) いのち・未来戦略本部室コミュニティ活性化グループからの県内66大学への周知による

共催等 なし

活動の様子



「かよ」こと、盛り上げ上手の峰松先生



インプロの披露に感動のコメント続出！



相手を思いながら表現を重ねていく



ひとつのひらめきが、次のひらめきに



体験が言語化されるのでわかりやすい



予想外の展開でも「YES AND」が楽しい

プログラム

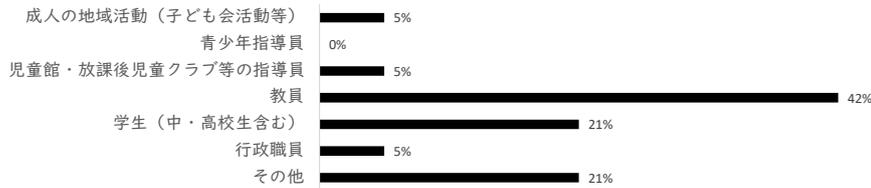
- ・オリエンテーション
- ・インプロシンキングワークショップ
- ・インプロ・ゲームワークショップ

参加者の
評価

		事業後の満足度	
		満足度が高い	満足度が低い
事業への期待度	期待度が高い	18人	0人
	期待度が低い	1人	0人

(左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。)

参加者の
所属割合



(アンケートより作成)

参加者の声
(抜粋)

率先して動く人(Leader)と周りを見てから動く人(Reader)がいるけれど、ずっと同じ役割であり続けるのはあまりよくないのだと思った。時と場合によって、いつものLeaderがReaderになってみたり、ReaderがLeaderで挑戦してみたりすることが大事だなと思う。

インプロってすごい。まず思いました。研修でも思ったが、他の人の発想や考えを、否定しないところは若い子のほうが柔軟だと思った(中略)イエスアンドを念頭に、人と会話をし、自分の世界を広げ、子どもたちにも伝えられればと思います。

始めは、出来るかなあと少し不安でしたが、見本を見せてくれるながら、分かりやすい説明と、明るい雰囲気、身体と気持ちがほぐれてきて、楽しむことができました。ありがとうございました。今の学校現場や子どもの成長に、ぴたっと合った研修を作ってください、ありがとうございました。感謝です。

評価

研修指導の経験が豊富な講師に、参加者の様子に合わせて、調整しつつ対応いただいた。近年、これほど一日中参加者から熱意や気迫を感じ続けた研修は少なく、達成感がある。参加者のコメントから、それぞれが学びを深めている様子が見られたため、次年度も同様に実施したい。

課題

多様な所属から参加者が集まり、互に関心を持ち、ともによい時間を作ろうという姿勢で臨んでくださったことが研修の価値を高めた。次年度以降は、どのように安定的に多様性を保つか、という点について方策を考えたい。

ステップアップキャラバン

- テーマ 第1回 平塚市ジュニア・リーダーズクラブKYT+ハンドゲーム講習会
第2回 秦野市諏訪市青少年交流キャンプ
第3回 大和市かるた大会
第4回 伊勢原市立成瀬小学校ふれあいまつり
第5回 伊勢原市比々多ファミリーふれあい体験学習
第6回 南足柄市ジュニアリーダーズクラブ&市内中学生のためのセミナー&交流イベント
第7回 川崎市青少年の家フェスタ

目的 青少年センターの研修受講生を対象に、実際に指導する機会を提供し、指導経験を積むことで知識や技術のスキルアップを図る。また関係機関や参加者相互の交流を深め、青少年育成のネットワークの促進を図るとともに、将来的に地域等で活躍できる指導者の育成を行うため。

企画の経緯 青少年育成に関心を持つ地域の若手の支援・指導者の育成には、プログラムの企画・立案を行う行政・施設職員との協働、子どもたちを対象とする実際の取組み、コーディネーターとのふりかえりの機会が必要である。この提供を通じ、若い指導者が経験を積み、効果的な成長を実感できるよう企画した。

- 日時 第1回 5/24(土)13:00～17:00
第2回 7/5(土)10:00～20:00
第3回 9/6(土)9:30～16:00
第4回 9/27(土)9:00～13:00
第5回 12/7(日)8:30～15:00
第6回 12/20(土)13:00～17:00
第7回 3/8(日)8:45～16:00

- 会場 第1回 平塚市青少年会館
第2回 秦野市表丹沢野外活動センター
第3回 大和市スポーツセンター
第4回 伊勢原市立成瀬小学校
第5回 伊勢原市比々多公民館
第6回 南足柄市中部公民館
第7回 川崎市青少年の家

参加対象 青少年センター指導者育成課の研修受講生のうち派遣登録者20人程度、および協力団体主催事業参加者

- 参加人数 第1回 32人 第4回 500人
第2回 59人 第5回 121人
第3回 78人 第6回 25人 (各回、ユースサポーター及び
第7回 1627人 事業参加者の合計数)

広報手段 協力団体へのチラシ送付による

共催等 【協力】神奈川県青少年指導者養成協議会※
※ 県内市町村、青少年支援団体及び県関係機関により構成

プログラム

【第1回】
・ハンドゲーム及びレクリエーションゲームの講師・進行

【第2回】
・アイスブレイキング、野外炊事、キャンプファイヤーの進行・補助

【第3回】
・イベントの来場者対応、デモンストレーション

【第4回】
・自然物を用いたクラフト体験の運営・指導

【第5回】
・バルーンアートの講師・進行

【第6回】
・アイスブレイキング及びKYT(危険予知トレーニング)体験の講師・進行

【第7回】
・来場者対応、出展ブースの運営・補助

活動の様子



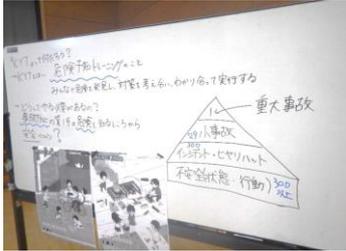
アクティビティを体験（第2回）



練習を生かしてCF本番！（第2回）



かるた大会の手本をJLと（第3回）



KYT講師は新たな取り組み（第6回）



ケーキづくりは貴重な体験に（第6回）



一番最初に来場者をご案内（第7回）

参加者の声
(抜粋)

姉妹都市交流自体に興味があり、初めての場所だったので行ってみようと思ったこともあって参加しました。キャンプでは改めて、子どもたちのパワーを感じました。天気の変化に臨機応変に対応できて、少しスキルアップができたかなと思います。

事前打ち合わせの大切さを感じました。当日決めることが多かったため、その場で決めたことも多くJLの困った様子が見られました。事前に話せるのであれば打ち合わせをしておきたいと思いました。

KYT（危険予知トレーニング）研修の講師依頼は中々ないため参加しました。内容が同じものであっても対象者によって全然違うこと、初めて取り組む対象者のワクワクと難しさを感じました。イラストがアップデートしていたので、自身の伝え方もアップデートしないと…と思います。

評価

ユースサポーター向けの事業として延べ15名の参加を得て当初の目的を十分に達成した。当課にとっては一般の子ども・若者と関わる貴重な事業でもあり、全体をとおして関わった人数が昨年度比6.00倍、一昨年度比19.07倍の2,442名にのぼったことはポジティブな要素だといえる。

課題

ユースサポーターの派遣実人数の拡大を図っているが、9名に止まっている。彼ら貴重な人材が、持続的に活躍できるよう支援を継続しつつ、事業の目的である研修受講生のスキルアップを推進するため、子どもフェスティバルのボランティア等を入口に登録を促す仕組みも継続していく。

その他の事業（連携・活動支援・受託事業）

子どもフェスティバル（子ども会大会）

神奈川県子ども会連絡協議会と共催で子ども会大会及びイベントを行った。指導者育成課は全体の企画運営を行った。

日	程	令和8年2月8日（日）10:15～15:45
共	催	神奈川県子ども会連絡協議会
場	所	県立青少年センター
来	場者数	一般 : 524人
		子ども会大会 : 17人
		ジュニア・リーダー、ユース・リーダー : 23人
		出展団体（ブーススタッフ） : 124人
		ボランティア : 24人
		合計 : 712人

中学生の主張 in かながわ

「少年の主張全国大会」の県予選として開催され、指導者育成課がその事務局を担当した。

主	催	神奈川県立青少年センター 独立行政法人国立青少年教育振興機構 神奈川県
後	援	神奈川県教育委員会 神奈川新聞社 NHK 横浜放送局 tvk 神奈川県青少年育成アドバイザー連絡協議会
応	募	状況 応募者総数：835人 参加学校数：35校
日	程	令和7年9月28日（日）（発表大会）
大	会	視聴者数 131人
場	所	県立青少年センター 紅葉坂ホール
応	募	資格 神奈川県内在住または在学の中学生（国籍は問わないが、日本語で発表できること）
内	容	神奈川県内中学校の生徒による作文発表と表彰 アトラクション（Sakae Wakamono Creation 2025 による創作舞台）
結	果	最優秀賞（神奈川県知事賞）神奈川県立相模原中等教育学校 2年 坂本 咲紀さん 優秀賞 6名 奨励賞 10名

支援・指導の現場で活かせるレシピの作成

神奈川県青少年指導者養成協議会の専門部会の成果物を兼ねて、青少年活動に役立つマニュアル・手引きを作成した。詳細は次ページ「専門部会」を参照。

元気な子ども・若者の地域活動調査事業

神奈川県内における地域活動の先進的な事例を、ジュニア・リーダーが中心となって取材・調査を行った。原稿執筆したものを情報誌「子ども会」にまとめて発信することで、指導者・リーダー層の研修事業等で活用した。

編集会議	令和7年 6月19日(木) 14:00～15:00	県立青少年センター
	令和7年 10月14日(火) 14:00～15:00	県立青少年センター
	令和7年 11月26日(水) 14:00～15:00	県立青少年センター
	令和8年 1月28日(水) 14:00～15:00	県立青少年センター
取材活動	令和7年 7月 1日(火) 10:00～12:00	川崎市高津警察署
	令和7年 8月 9日(土)～11日(月)	厚木市七沢自然ふれあいセンター
	令和7年 9月14日(日) 10:00～13:00	横浜市三ツ沢青少年野外活動センター

神奈川県青少年指導者養成協議会

青少年支援・指導者の育成を県・市町村・青少年関係団体等の連携のもとに推進することを目的として設置した。会員は、県・市町村青少年主管課長及び青少年関係団体の長が担い、指導者育成課が協議会の事務局を担当した。

① 総会

県・市町村・青少年関係団体等の青少年支援・指導者育成事業についての報告と計画について共有し協議した。また、青少年支援・指導者の育成の一助となるような青少年支援に関わる講演会を開いた。

日 程：令和7年5月16日（金）14:00～16:30

講 演：「体験を通じて広がる子どもの育ちと学び」

講 師：青木 康太郎 氏（國學院大學 人間開発学部子ども支援学科 教授）

② 常任委員会

県・市町村・青少年関係団体等の青少年支援・指導者育成事業についての報告と計画について、二年任期で任命された常任委員9名において共有し協議した。

日 程：令和7年4月9日（水）14:00～15:30

令和7年10月8日（水）14:00～15:30

令和8年2月12日（木）14:00～15:30

③ 専門部会（Web ページより抜粋）

「アイスブレイキングをもっといろいろな人に知ってほしい、実践してほしいという想いからさまざまなアイスブレイキングを紹介する動画を作成しました。このホームページでは、そんなアイスブレイキングの魅力をご紹介すると共に、指導方法、選び方、活用方法についてもわかりやすく解説しています。また、目的や場面に合わせたおすすめ動画もたくさんご紹介しているので、実践的なアイデアを見つけることができるでしょう。子どもたちに仲良くなってもらいたい、初対面の緊張を和らげたい、自分のコミュニケーションスキルを向上させたい、そんな方々にとって、このサイトが役立つ情報源となれば幸いです。さあ、アイスブレイキングの効果を実感してみませんか？」

④ 青少年支援・指導者育成事業担当者会議

県市区町村及び青少年関係団体の事業の展開における課題や問題等の検討を通じて、新たな方向性を探るとともに、担当者相互の連携や協力を深める機会とすることを目的に、青少年支援・指導者育成事業担当者が会した。2部開催し、第1部は各地域で4回、第2部は当センターにて講演とワークショップを企画した。

第1部の日程・会場

令和7年4月16日（水）14:30～16:30 小田原合同庁舎

令和7年4月18日（金）14:30～16:30 県立青少年センター

令和7年4月23日（水）14:30～16:30 平塚合同庁舎

令和7年4月25日（金）14:30～16:30 厚木シティプラザ

第2部の日程・会場

日 程：令和7年11月14日（金）13:30～16:40 県立青少年センター

事例発表：「行政職員がつくる若者の居場所～青少年会館劇的ビフォーアフター～」

事例発表者：下釜 由子 氏（鎌倉市こどもみらい部青少年課）

⑤ 青少年支援・指導者活動状況調査、青少年支援・指導者育成事業実施結果の調査

2月に各機関や団体で把握している青少年支援・指導者の活動状況（活動人数）について調査を行い、併せて青少年支援・指導者育成事業の取り組み状況等について、具体的に調査を行った。

青少年資料室の運営

指導者育成課事務室内に収蔵する約2,200点の青少年に関わる資料整備と貸出等を行った。

団体への支援・協力

青少年問題対策推進事業（チェンジライフクラブ）・体験の風をおこそう@かながわ の広報及び運営の補助を行った。

講師派遣

県機関・青少年主管課・青少年関係団体等が主催する事業への、専門家の紹介又は派遣を行った。

講師派遣：6件

1. 目的

指導者育成課で実施する研修事業の目的や内容が参加者に伝わり、意義のある効果的な研修となったかを調査するとともに、参加者の研修内容の事後活用に関する実態を把握し、今後の事業の企画運営に反映させるため。

2. 対象 県立青少年センター指導者育成課の研修事業を4月～10月に受講した者

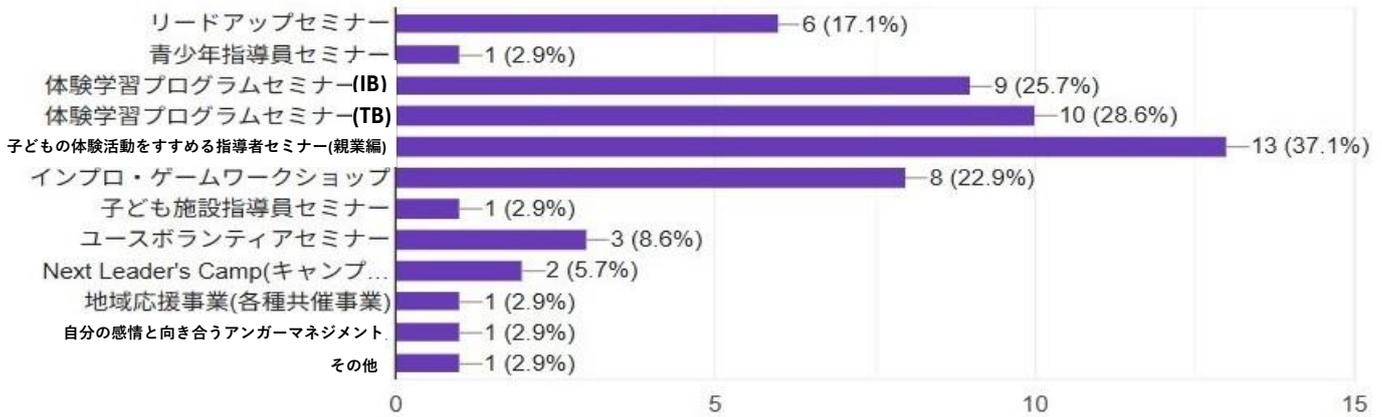
3. 期日 令和7年11月

4. アンケート結果 (回答：35名)

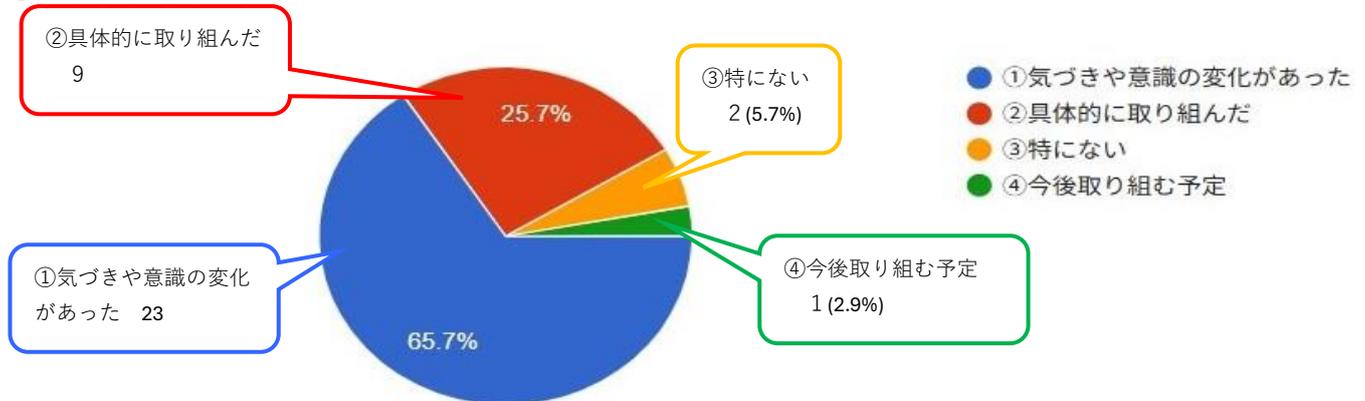
①回答者の所属先

- ・ 縣市町村青少年主管課職員
- ・ 学校教員 (小・中・高・大)
- ・ 青少年指導員
- ・ 学生 (中学生・高校生・大学生)
- ・ 青少年関係団体職員
- ・ ボランティア
- ・ ジュニア・リーダー、ユース・リーダー
- ・ 子ども施設指導員(学童、児童館等)

②受講した研修事業



③受講後、意識の変化や具体的に取り組んだこと



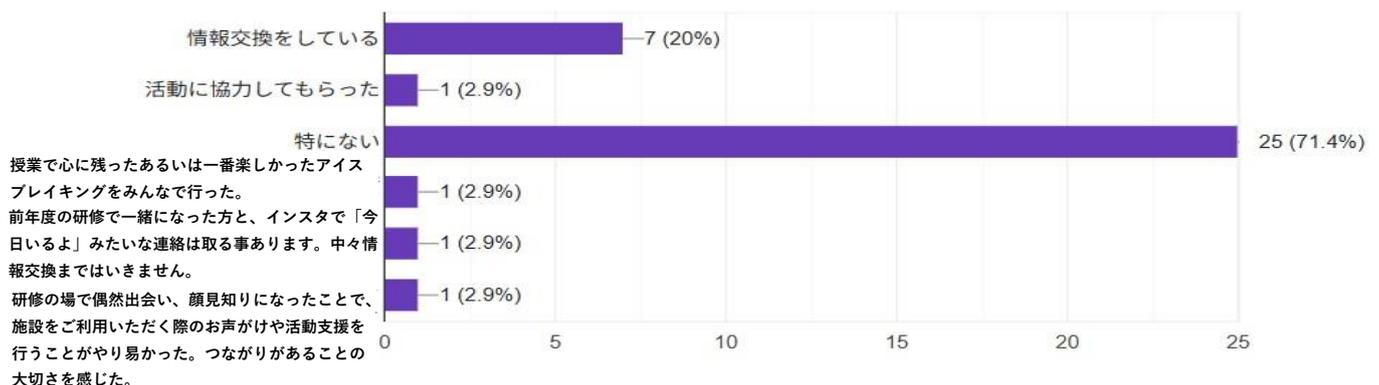
上記③回答の理由

- ・ 享受されたことを発揮する場が期間内になかった。チャンスがあれば取り組みたい。
- ・ 工作についての提案をしたが、事業の企画として採用されなかった。

上記④回答の詳細

- ・ 児童館では毎月、子供達と行事を行うので、その参考としました。

④受講後、受講者同士の情報交換、交流等はあったか



⑤研修をふり返っての、ご意見(不足内容、配慮事項等)や感想等 23件の回答

県・市町村青少年主管課職員

- ・講義も参考になったことに加え、県組織以外の青少年に関わる方々に関わる機会がなかなかないので、グループワーク等で情報交換できて良かったです。(県職員)
- ・リードアップセミナーに参加させていただきましたが、行政職員が青少年育成の現場での心構えやスキルを学ぶために非常に効果的な内容でした。青少年育成事業は市職員だけで成し得るのは難しく、青少年育成の実践者である市民(指導者やジュニア等)との信頼関係を構築することがマストになります。その上で必要なことは、ただ業務に取り組むことでなく、彼らの考え方を理解して、同じ目線で事業に臨む必要があると考えていますので、実地での研修は、私にとって有意義で、多くの成果がありました。(市町村職員)
- ・インリーダー研修会と小学校ふれあいプラザ事業研修会にて大変お世話になりました。参加者に対してこんな研修会にしたいという思いはあるものの、アイデア出しに行き詰ってしまうことがあったり、指導スキルのある職員もおらず講師謝礼も予算で確保できないなか、青少年センター研修事業に助けられた部分が多くありました。事前の打ち合わせをリモートで顔を合わせてお話でき、こちらの要望を快くお引き受けいただきアドバイスもいただけたこと感謝しております。また、青少年センターの先生方の研修の進め方、内容は当市主催の事業を実施するにあたり参考にさせていただいた部分が多く、学ばせていただくことばかりでした。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(市町村職員)

学校教員

- ・学びたいと思っていたことを、研修に取り入れてくださり、感謝しています。講義を聞くだけでなく、実際に自分が体験できるのが、とてもいいと思います。自分の仕事に生かしやすいです。(小学校教員)
- ・人どうしの関係性を円滑に築いていくことができれば大人も子どもも人生がより楽しくなると思います。そのためには、学校でコミュニケーション力をつけることができるとすてきです。教員は、コミュ力をつけられるような環境、場づくりの引き出しをたくさん持っていた方がいいと思っていますので、今後もそのような研修があれば参加したいです。(小学校教員)
- ・即効性のあるとても為になる講座でした。指導の引き出しを増やすきっかけになります。(小学校教員)
- ・学級経営のメソッドが増えました。(小学校教員)
- ・研修した事を直ぐに実践できる場を用意して頂くと良いと思います。教えっ放しでないようにして頂くと有り難いです。(小学校教員)
- ・学びの場は年齢問わず必要と感じ、受講させて頂きましたが、とても充実して意義のある内容でした。アイスブレイキングは、特別支援級の授業の中で取り入れていて、定着しています(じゃんけん系)。受け身だけだと生徒は飽きるので、体を動かし、声に出して、みんなでやる事で一体感も生まれ、悪くないと実感しています。教わったアクティビティを英語の授業で取り入れて、前後左右で方向指示マーク、漢字、ふりがななどを英語表記にし、指示内容を提示しながらみんなで一緒に行う事で緊張感と笑いが混じり良い雰囲気のまま授業に入れます。今後も授業に役立つちょっとしたヒントやアイデアの講座があれば、ぜひお願い致します。(中学校教員)
- ・参加した二つの研修とも、同僚や生徒とのコミュニケーションを円滑にするヒント満載の内容でした。実際にどのような雰囲気、対応をすると、周りの力や意見を引き出せるか、意識して行動するようになりました。(高校教員)
- ・アイスブレイキングは、生徒が生き生きとするきっかけづくりに大いに役立つ内容であり、教員として多くの引き出しをつくることができました。折をみて、また取り入れたいと思います。(高校教員)
- ・多くの研修は、同様の属性のメンバー対象となるものがほとんどかと思いますが、今回参加させて頂いた研修は、様々な属性と年齢層の方々とご一緒でき、世代も経験も異なる初対面の方々と、一つのことに向かって共に考え、そして楽しみながらつくりあげる大変貴重な体験ができました。また、様々な校種の先生方も情報交換、交流ができ、小中高と繋がる共通の課題や、取り組み、考え方をすることもできました。そして「人を知る、相手を知る、気づく、イメージする。」多くの気づきをいただきました。研修企画担当者様の細部に渡る細やかなご配慮が、より参加者を繋げてくださったと心から感謝申し上げます。またぜひ次回も参加したいです。(高校教員)

青少年指導員

- ・初めての体験でしたが、インプロを通して表現する楽しさを感じました。(青少年指導員)
- ・貴重な体験をさせていただきありがとうございます。改めて学ぶことがあり、現在進行形で活かしたいと毎日を過ごしています。参加された多くが教員のため、一般人には気後れする内容かと構えた反面、それを気にする事のないとても良い機会でした。しかし現実的には、それを同僚に伝えられない、伝わらないもどかしさを感じています。親業は、奥の深い学問なのだと思います。(青少年指導員)

子ども施設指導員

- ・たまたま掲示板に掲示されているチラシを見付け、休みだったので参加できました。チラシが偶然目に入ったのが良かったです。HPをあまりチェックできないので、県のたよりなどに載せて頂けると、もっと意識して参加出来ると思いました。(子ども施設指導員)
- ・研修内容はとてもよかったです。また参加したいと思います。(子ども施設指導員)
- ・たいへんわかり易く、参考になりました。(子ども施設指導員)

青少年関係団体職員

- ・最近研修に足を運ぶことも少なくなりマンネリ化しがちなので定期的にブラッシュアップは必要だと思ったし楽しかったです！ただ前半のアイスブレイク体験は、大人がアイスブレイクを通して変化する気持ちを体験するという意味では効果的だったと思うけどもし実際に子どものいる現場で使えるゲームを学ぶことを想定すると、少しそぐわないゲームもあったかなと思いました。(青少年関係団体職員)
- ・親業のセミナーを受講させていただきましたが、自身で体験しながら学ぶ方式でわかりやく構成されていました。講師の方に限らず、円卓ミーティングで多様な職種の方の話を聞き、新しい視点や考え方に触れることができとても有意義な時間になりました。(青少年関係団体職員)
- ・今回の研修で、他の自治体で働かれている方々に関わることができとてもうれしかったです。(青少年関係団体職員)
- ・同じ、または似たケースで悩みを持つ人たちが集まったと思うので、定期的な勉強会などあったらいいです。聞きたくてもそこまでの繋がりを1回の講座で作るのは難しいのでは。皆さんどうされているのか？講師の講座に通うというのもあるとは思いますが…(青少年関係団体職員)

ジュニア・リーダー、学生

- ・ジュニアリーダーと一緒に居たので、とても有意義な時間になりました。(ジュニア・リーダー)
- ・アイスブレイクでは、もっと学生の人数が増えたら、職員の方々のフィードバック以外に、受講生同士がその場で意見交換が行いやすいと思った。(大学生)

⑥今後、当センターの研修で希望する研修テーマや内容等 (一部抜粋)

- ・子どもの気持ちを理解するカウンセリング、コーチング、グループワーク、強いメンタルの作り方
- ・さまざまなバックグラウンドを持つ人と交流できるような研修を、今後も続けてもらえるとありがたい。
- ・子どもに届く話し方、プレゼンや人前に立つための話し方など話し方の講座
- ・今回行った簡単な工作と実験を、新たにブラッシュアップしたもの
- ・特別支援級や、学習支援級の生徒も楽しめる授業のアイデアなど
- ・メンタルトレーニング
- ・ロジカルシンキング
- ・性教育
- ・消費者教育
- ・中高生の居場所
- ・若者を狙う依存症(薬物、タバコ、ゲーム)対応。
- ・「心の声を聴き取る方法」

次ページに、詳細を取材した受講者数名を掲載